

GUNDAM MS HISTORICA

ガンダム
MSヒストリカ

ガンダムの世紀

皆河有樹

第8回 アサハの平和

GUNDAM SIDESTREAM

ガンダム・サイドストリーム

第8回 40年ぶりのバリエーション2

GUNPLA Revelations

〜ガンダム30年の歩み〜

第8回 X16が見せたガンプラの新たな進化

重量級ガンダム特集

宇宙を震わせる脅威

RX-78GP01 ガンダム試作1号機

RX-78GP02A ガンダム試作2号機

RX-78GP03 ガンダム試作3号機

MSZ-010 ZZガンダム

宇宙を震わせる脅威

その機体の一部一隅は敵を威圧し、刺さるも届かない。
考えよう。限りの技術をすべて注ぎ込まれ、
存在それ自身が脅威となる。
畏るべきガンダム族が集結する！

RX-78GPD1 ZEPHYRANTHES

RX-78GPD1-FB ZEPHYRANTHES

RX-78GPD02A RHYSALIS

RX-78GPD03 STAMEN

RX-78GPD03 DENDROBIUM

MSZ-010 ZZ-GUNDAM



一年戦争後の混迷とガンダム

一年戦争の悲劇を経てなお、地球圏を覆う戦いの渦 混迷を深める戦後の地球圏に、3機のガンダムが一瞬の光を放ち、やがて時代の闇へと消えた。

一年戦争終結後の混乱

U.C0079年に勃発した一年戦争において結々たる戦果をあげ、地球連邦軍の象徴となったM.S. RX 78-2ガンダム。その機体は戦争末期のアー・ハイアーク攻防戦において失われたが、続いて迎えた戦後という時代でもまたガンダムに永い眠りを許しはしなかった。0083年、一年戦争終結からわずか3年あまりにして、地球連邦軍は3機の新型ガンダムを開発したのである。俗にG.P.シリーズと呼ばれる。ガンダム試作1号機から3号機がそれていた。

今日、これら3機は、史上最も不遇な運命を辿ったガンダムとして名高い。一年戦争当時はもちろん、のちのグリアス戦後時代のM.S.を基準として時計すべき高性能を実現しながら、その存在はくずし世の闇に葬られてきたからである。この背景には、一年戦争終結後の混迷が、大きく影を落としていた。

すべての発端は、一年戦争後の地球圏が決して平和ではなかったことにある。実際にはサビ家の独断専断に過ぎなかったといえ、スベスノイトの自由・独立を人義に掲げていたジオン公国の特許はし気が高く、戦後、彼らのうち決して少ないとは言えない人数が、ゲリラ化してのびのびとした

RGM-79N ジム・カスタム

連邦軍再建計画で開発された、デュー・ゲッター当時の実験機。非武装に近い性能を誇るが、それでも機体設計の技術は反映されている。この一機からも、同計画の目指した技術水準の高さが窺える。



デュー・ゲッターの非武装に近い性能を誇るが、それでも機体設計の技術は反映されている。この一機からも、同計画の目指した技術水準の高さが窺える。



地球連邦政府はこれを理由に、終戦直後から戦争準備を行い、戦力の立て直しを図り、0083年10月13日、連邦軍再建計画を実施する。その一環として同年201日に立案されたのが、のちにG.P.シリーズを『ガンダム』開発計画だった。

戦後ならではMS開発

この計画は、連邦軍の次世代主力M.S.量産計画に先立つ技術開発を主眼としたもので、その意味では一年戦争時のV作戦と何ら変わるところがない。たかきく異なっていたのは、時代の要請であった。戦うべき敵国がもはや存在しない以上、かつてのような物量任せの人間機械戦は想定外となる。たかきく、ジオン公国軍戦艦相手の局地戦やゲリラ戦、暴走暴動、果ては少数精鋭による拠点攻撃まで、M.S.の任務が多様化すると予想されたのである。これに対応するには、まず従来よりも、歩進んだ技術と設計思想に基づいて、MSに何ができるのか、を内検証する必要があったのだ。

またその過程においては、旧ジオン公国軍のMS開発技術も決して無視できなかった。一年戦争当時、連邦軍より常に「手先」していたその技術力を取り込むことは、フラッグシップ機たるガンダムに不可欠であると考えられたのだ。

そこで、計画を指揮するシェン・ゴウウェン中将は、ガンダムの開発そのものを民間研究事業に委託するという英断を下す。自割の笑が合ったのは、数多くの旧ジオン公国系技術者たちを吸収していた、アナハイム・エレクトロニクス社。同社はこの申し出を快諾し、ほどなく3機の新型ガンダムをプレゼンテーションした。従来の汎用M.S.の進化形である試作1号機「公国軍のMS 09」ドムに範を取った攻撃型の試作2号機。そしてモはやM.S.と呼ぶのも憚られる「人アームドヘルス、オーキス」を装備した、拠点攻撃・防衛用の試作3号機である。うち1号機と2号機は「クラブ・ワークス」と呼ばれる先進開発事業部が、2号機は旧ジオン系の技術者が多く有籍する第1研究事業部が設計開発を担当。連邦議会の承認を受けて試作

が開始されたが、この段階で2号機には機体核が装備されることに決定し、耐熱・耐放射線機能の強化が図られた。

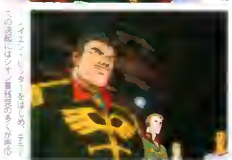
こうして3機のガンダムは、0083年9月から順次ロールアウト。純宇宙仕様のみ号機を除く2機はヘガサス線の新造強襲降陸艇アルビオンに搭載され、オーストラリアのトリントン基地で機体頭装備とテストを行う運びとなった。

デラース紛争の真実

たが完成した3機のガンダムは、ほとんど戦後という時代の怒濤に呑み込まれることとなる。0083年10月13日、テラース紛争が勃発したのだ。

この戦いは、かつての一年戦争のような総力戦とは、大きく趣を異にしている。各陣営の目的は敵の破壊や敵資源の奪取にはなく、むしろそれぞれ政治的意図を具現するためのプロパガンダにあったといえる。勢い、その過程では銃弾よりも機体破壊が頻りに、各勢力が、そして3機のガンダムもまた「寄って倒されることとなった。

まず1号機、たのは、エギーヌ・テラース中將率いるジオン公国軍戦艦部隊「テラース・フリード」であった。暗黒軍域に「後の」と呼ばれる整備基地を建設し、3年がたったって機体を送りつけた彼らは、連邦政府に対して首戦を宣言し、早の初戦、を先発する。続いてあるうことが、ガンダム試作2号機を機体破壊もろとも奪取してしまったのである。11月10日、直上へかった2号機は、コンバートウズ新官邸（旧ジオン公国軍ソコモン要塞）における連邦軍の機体核を強襲。核を用いて「



「1号機」は「2号機」を破壊して、その機体核を奪取した。その結果、2号機は「1号機」の機体核を奪取した。その結果、2号機は「1号機」の機体核を奪取した。



参加艦艇の1を破壊。さらにテラースとその消息に乗り、第2次コロニー再昇計画で移送された無人コロニーを奪うと、地球の北米大陸地帯へ落すと企てた。飛の発砲の目的は、連邦政府の財政を打って受けている問題に対する一掃のアクションであり、同時に親自地帯の破壊によって地球のコロニーに対する食糧依存度を高め、ハイネンノイトの勢力を拡大することだった。

ところが、そのテラース・フリートに夢中して、シーマ・カラハウ中尉は、別の思惑を抱いていた。戦後、海軍行方不明になっていた彼女の艦隊は、事後の調査に閉店して連邦軍内の地球ヤマト義勇に内通。これによりテラースの思惑を知ったシーマ・コロニー人将とその腹心シヤミト・フハイマン中尉は、あえてコロニーを落とさず、落す前に、ノーラ・システムIIで破壊することを計画。シヤミトの艦隊の進行を、水際で阻止してみせる。ここでその脅威を訴え、スベスノイト弾頭の人名名にしようという腹があった。

だがテラースとその部下たちの決意は、コロニーの思惑を遥かに超えて固かった。一年戦争でソロモンの惨夢と恐れられたアナヘル・ガ

ンダムの市街に、翌日の布陣で襲来を待ち構えていた。ノーラ・システムIIは相違。結果、コロニーはテラースの思惑通り、北米のウィルに、落着いてしまったのである。

この悲しい戦いにおいて、テラース、カト、そして戦死。コロニー落着くことによって連邦軍の威信は人に届いたものの、逆にコロニーは覺悟を増し、旧・オランダ軍残勢力を主任務とする特務部隊ライオンズを結成することに成功した。だが、壊滅したテラース・フリートもまた当初の目的を果たし、以降アースノイトとスベスノイトの接触は、迅速な規模で拡大。のちのダリウス戦役へとつながっていくのである。

闇に葬られたガンダム

これら、連のテラース戦時に、もともとあそばせたのが、4機のガンダムとアルビオン隊そしてコロニー軍であった。機体開発の試作機を奪われて以降、試作1号機を操るアルビオンはその追討任務に従事していたが、機体式の後の戦いで1号機と2号機は相討ちの末に大破。それでもA.E.社の人、トウ・クヱツ・アインズから試作1号機を受領し、地球へ降下するコロニーとテラース・フリートを最後まで追いつけたのだから、彼らの基盤のコロニーの落着けは、地球ヤマト義勇のシヤミトにはなかった。おかげでアルビオン隊は試作1号機の受領を味方に助言されたばかりで、事後には試作1号機強化の責任を問われてコロニー中尉が失脚。果てはガンダム開発計画自体が公式記録から抹消された。闇に葬ら



「戦争で失ったガンダム」の物語、その後のガンダム開発計画の物語



「戦争で失ったガンダム」の物語、その後のガンダム開発計画の物語

れてしまった。A.E.社もすべての資料を破壊させられた。たとえ残りのMSとその技術を受け継がれていようとも、真面に晒されることは決してなかった。結局3機のガンダムの存在は、実に1009年になるまで隠蔽されたのである。

前述のように、3機のガンダムは極めて高い性能を誇り、テラース戦争でもその力を遺憾なく発揮している。だが、いかに優れたMSであろうと、時代、という敵を討つことには決して叫ぶことはできない。かつてRX-78が一年戦争を象徴したように、歴史の隅に消えた3機の試作型ガンダムもまた、戦後、という時代の闇に背負われているのである。



Basic Knowledge of G

4機目のガンダム

上記文中では、ガンダム開発計画で試作されたのは1号機から3号機の3機機であるが、実を言うところの計画の初期段階ではもう1機機、GP04と試作4号機も試作されている。この機体は、開発スタッフから「ガンダム・ガバレー」の愛称で呼ばれていた。

機体攻撃、防衛用の3号機に照準するように、一連のGPシリーズでは従来の機体を超えたMSの、さらなる可能性が描かれていたが、この試作4号機はほかにも格闘能力に特化した設計となっている。ただ、結果として高い機動性を要求するコンセプトが試作1号機と隔絶したため、設計時点からガンダム開発計画からは除外されていたのだ。ところがA.E.社をそれはいかに、秘密裏にではない自社製品として開発を続行。後にAGX-04 ガバレー・

ガンダム開発計画から外され、取引の材料にされた第4の新機体とは？

テラとしてロールアウトさせていた。さらに驚くべきことに、完成機は軍用機によって、シーマ・カラハウに無償譲渡されているのだ。恐ろしくは戦場がどうなるかわからない戦争で、民間企業であるA.E.社として、双方の機体は形を売っておきたかったという点である。これもまた、闇の戦時体制に準ずる一年戦争中には、考えられなかった事象である。

結局このガバレー・テラは、この経緯を機体するためガンダム・タイプとは異なる形に設計され、シーマの専用機となっている。だが度向にもテラース戦争の最終局面で本機を駆ったシーマは、アルビオン隊の試作3号機と遭遇。初戦リリー・マルレーンで撃沈されたが、自らも巨大ビーム砲に食われて戦死し、真実も隠された。

AGX-04 ガバレー・テラ

基本スペック

全高 16.0m 本体重量 44.2t
ジェネレーター出力 1710kW
スラスター 電力 / 216,000kg
装甲材質 / 鋼 / チタニウム合金
直経 / 110mm 機関数 4
ビーム・サークル 4
ビーム・マシンガン



本来なら格闘機だったはずの試作3号機に敗れ、ガバレー・テラはMS開発から撤退した。

新たな旗機たるガンダム

渾身を極めた一年戦争の終結も、平和をもたらすはなかった。くすぶり続ける火種に対し、地球連邦軍がとった次なる一手。それは自らの勝利の象徴である「ガンダム」の再生。かくして、新時代を担う旗機となるべく誕生した機体であったが……。

構成・文：岡島正晃

「白い伝説」の後継

試作1号機は、名機RX-78ガンダムの道化子をもっとも色濃く受け継いだ機体と言える。

前述のとおり、ガンダム開発計画では、MSの新たな可能性が模索されたわけだが、これは従来の運用術を否定するものでは決まらなかった。確かに試作2号機と3号機は特殊用途に特化した設計だったが、現場レベルでは旧MS局地戦をはしめとする「通常の」任務が大半を占めるはずで、従来の「汎用機」も依然欠かせなかったのだ。

そのために開発された次世代汎用MSのフラッグシップ・モデルが、ガンダム試作1号機であるアナハイム・エレクトロニクス社の先進開発事業部「クラブ・ワークス」の手になるこの機体は、RX-78をベースに一部、旧ジオン公国系の技術を導入し、30%もの性能向上を実現。運用面でも従来型MSとはほとんど変わることなく、あらゆる局面で力を発揮することができた。クライアントである連邦軍に必要にわたりやすかったようで、Gシリーズ中、続く「量産型」がもっとも意識されていたのも、この1号機である。少なくともロールアウトの時点においては、あらゆる点でRX-78

の正統な後継機だったと言えるのだ。

戦後世代の独自仕様

とはいえ、試作1号機に新たなトライアルが盛り込まれていなかったわけではない。なかでもコア・ファイターIIの搭載と、宇宙用装備フルバーニアンへの換装が可能な仕様は、戦後という時代の要請を窺った新機軸であった。

このうち前者は、旧RXシリーズのコア・ブロック・システムと同じく、パイロットとテストデータの緊急脱出と回収を主目的とする。ただし戦後という状況を鑑みると、さらなる意義も読み取れる。一年戦争中に比べ機体の消耗率が下がるはずの戦後環境では、純正に時間と予算を要するパイロットの価値が、相対的に跳ね上がるのだ。フルバーニアンへの換装機能の採用も、機体が長期間使用可能であるなら、環境特化機やサポートマシンを大量に生産して下葬を食い止めるより、早期の返還能力を高めて運用性を向上させたほうが良いという理屈にもとづくものだ。

ある意味、パイロットと機体を大事にするこれらのシステムが、戦産化を前提とする1号機に搭載されていた事実からは、次世代汎用機のあるべき姿を模索する開発者たちの愛情が垣間見える。

ちなみにA.E.社では、女性開発者にも親しみやすいよう、機体に花の名前のコードネームが与えられていた。試作1号機の場合はヒガンバナ科の「ゼフィランサス」。花言葉は「清き愛情」だ。

読み違えた時代性

そんな試作1号機が迎えた運命は、皮肉に満ちたものだった。デラース紛争に迅速投入された1号機は、2号機と相討ちの末に損壊。続く陰謀劇によって、存在そのものが公式記録から抹消されたのである。以降、連邦軍各派閥とアックスら敵対勢力は、軍備増強に邁進。一年戦争中と変わらぬMSの配備数競争に、試作1号機に開発陣が持てた愛情など、入り込む隙はなかった。一部によると、全資料の消滅を命じられたA.E.社はその一部を秘匿し、のちのMS開発に活かしたとも言われているが、パイロットと機体の保全にこれほど配慮されたMSは、のちの同社製品にもほとんどない。

戦後ならでは汎用機を志向し、優れた仕様を誇りながら、歴史の闇へ消えたガンダム試作1号機。だが、それもまた必然であったのだろう。実際には「戦後」という時代は、決して訪れていなかったのだから。

このち、地球圏は再び戦火に包まれるのだ。

RX-78-2 ガンダム

一年戦争時代最後の、伝説的な機。先鋒特務の秘動員により、極めて高い性能と汎用性を誇った試作1号機のコンセプトは、あらゆる点でこの機体を超越していると言える。

カラーリングは旧機とほぼ同一。1号機のカラーリングは、主に白と青の配色で、機体各部に赤や黄のアクセントが施されている。



RX-78GP01-Fb ガンダム試作1号機 フルバーニアン

宇宙用オプション装備当初コア・ファイターIIの必殺技の予定だったが、大破からの修理のついでに大幅な改修を加えられ、設計以上の機動性を発現した。

SPEC

機高 48.5m
全長 19.0m
本体重量 43.1t
全機重量 74.0t
シネネーター出力 2.045kW
スラスター機力 234.000kg
45,000 × 4 (13,500 × 4)

標準時間 ルナ・チタニウム合金
武器 鋼製バズーカ、ガンダム
ビーム・サーベル×2
ビーム・ガン
セラム・ライフル
ビーム・マシンガン、2連射型
試作ビーム・ライフル
→1号機



SPEC

機頂高 18.0m
本体質量 39.7t
全機質量 65.0t
ノーマル・ターボ出力 1,700kW
マスター・推力 104,000kg
マスター・推力 (42,000 × 2 12,000 × 2)
機体材質 ルー・セラニウム合金
武装 機関・バルカン銃・2
ビーム・サーベル×2
ビーム・ライフル
フル・ビーム・マ・ノガン
シールド

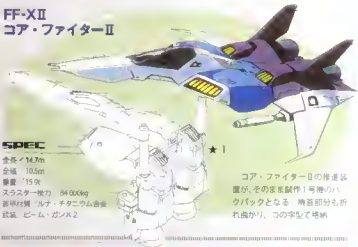
イラスト・小笠原智史

RX-78GP01 ZEPHYRANTHES

ガンダム試作1号機的设计思想

パイロットの生還率を高めるコア・ファイターII

FF-XII
コア・ファイターII



次世代MSを予感させるフレーム構造

ポディ内部に何の
制御機などはなく、脚
部をフレームだけで支
えているのわかる

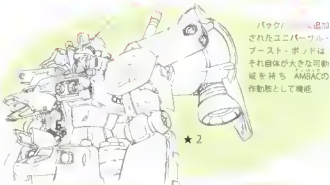
★

各駆動フレームはそれぞれ独立しており、車体
その駆動も可能。角面では上半身だけで戦闘を行
い、MSヴァル・ヴァロを駆使している

コア、ファイターIIの推進装置が、そのまま試作1号機のバックとなる。機首部分も折れ曲がり、コ字の字型で格納

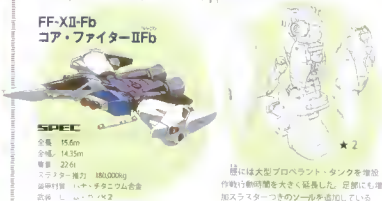
宇宙での機動性を確保するフルバーニアン・システム

新たな主力MSの試作とされた試作1号機は、地上と宇宙の双方で運用できることと大前提とされた。一年戦争中の汎用MSでは、機体の基本構造そのものを両対応として設計され、推進システムや制動システムの換装のみでこの点を解決していたが、その代償として、それぞれの環境にふける機動性は、専用に及ばなかった。この試作1号機では、空間機動機体と制動システムをオプション化、各部のフラスター増設などにより、宇宙空間のMSとしてと確かな加速性と機動性を獲得している。このオプションを装備した機体は、ガンダム試作1号機フルバリエーション(二アーク)と呼ばれた。



バックアップ品が
されたユニバーサル、
ブースト、ボンドは
それぞれが大きな可動
域を持ち、AMBACの
主動脈として機能

FF-XII-Fb
コア・ファイターII Fb



腰には大型プロペラント・タンクを増設
作戦行動時間を大きく延長した。足部にも増
加スラスター付きのソールを追加している

Weapons of RX-78GP01

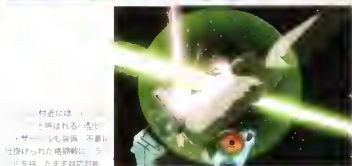
次世代標準となる新技術と、信頼性の高い既存技術。その双方をふんたんに導入した試作1号機の専用兵器は、実戦でも高い成果をあげた。

ビーム兵器

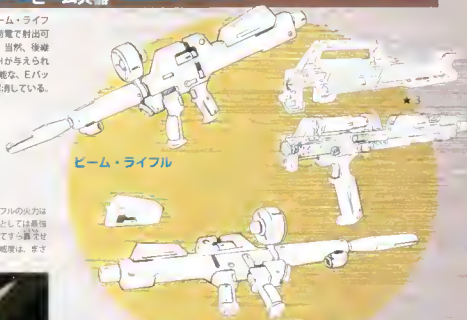
一年戦争においてRX-78を伝説たらしめた最大の要因は、専用火銃のビーム・ライフルであった。縮退寸前のミノフスキー粒子を内部にチャージし、わずかな荷電で射出可能な小型メカ粒子銃は、当時の戦艦の主砲級の威力を持っていたのだ。当然、後継機である試作1号機にも同種の専用武器として、ボウワ社のXBR M-82-Q5Hが与えられている。この銃は、ミノフスキー粒子を本体ではなく専用マガジンに充填可能な、Eバック方式を採用。携行ビーム兵器の唯一の欠点であった、射撃数の少なさを解消している。



ビーム・ライフルの火力はMSの機体大源としては最強クラスで、戦艦ですら轟きしめる。その卓越度は、まさにRX-78譲り。



付近には、
と叫ばれる。透け
・サー・しも容れ、不意に
仕掛けられた機体群に、
うを待。たまに対応の難



ビーム・ライフル

ビーム・サーベル

純粋近接兵器として、バックパックにプラフュ社製のビーム・サーベルを2基搭載する。コア・ファイター且形態では刃を屈曲する1フィート半を解鎖し、ビーム・マガジンとして用いることもできる。



防御装備

防御装備としては、専用シールドを携行。上部が伸縮式で取り回しが容易なほか、裏面のグリップを持つだけでなく、前腕部にマウントしての携行も可能。また、裏面にはビーム・ライフル用の予備のEバックなどを取り付けることもできる。

シールド



射撃ビーム・コーティングが施されているが、直撃に耐えられるのはせいぜい3回程度。それでも当時としては、他に類を見ない特長と云える。

実弾兵器

圧倒的威力を誇るビーム・ライフルだけでなく、試作1号機は既存のMS用実弾兵器も運用可能。当時の標準軍MSにとって標準的な装備であった90mmフルバップ・マシンガンと、ビーム・ライフルの同時使用も確認されている。また、頭部には、地球連邦軍MSの標準装備といえるバルカン砲を装備。主として近接防衛用に用いられた。

フルバップ・マシンガン

UC0083年当時の最新式フルバップマシンガン。小口径なため威力は低い。そのぶん集弾性と命中率、取り回しに優れ、近接戦では極めて高い。



頭部バルカン砲

頭部には、60mm口径のバルカン砲を2門装備。対MS戦では威力不足だが、射撃的中率への攻撃など、その用途は多岐にわたる。



核の矢を射る戦略機

旧ジオン公国系技術の吸収を主眼とした、ガンダム開発計画 それは地球連邦軍に、旧敵のMSを祖とするガンダム試作2号機をもたらした。だがやがて2号機は、その出自に相応しい“ジオンの亡霊”に変貌する。MSの身に余る、大きな力によって、

構成・文：岡島正晃

ジオンを祖とするガンダム

サイサリス ホオズキを意味するその名の花言葉は、“偽り” アナハイム・エレクトロニクス社でこのコードネームを与えられたガンダム試作2号機は、誰かに自己欺瞞の塊だったと、いい。その出自と変遷で運命の皮肉に叫び、かつ超然とそれを受け入れたガンダムだった。そもそもこの機体は、連邦軍の象徴たるガンダムタイプでありながら、ジオン軍MSの衣鉢を継いでいる。ガンダム開発計画では、旧ジオン公国系技術の吸収も目的のひとつであつたが、ともにこの試作2号機と、設計段階で計画から除外された1号機は、旧ジオン系の技術者が多く在籍するA.E.E.の第1研究支部が開発を担う。それだけに、旧ジオン系MSからのフィードバックが数多く受けられるのだ。

本機の場合、最大の特徴は、MS 09 トムタイプに範を取ったコンセプトだった。地上用はホバー、宇宙用では人型スラスターを備えるトムは、多少の被弾をものともせずに優れた速力で敵艦隊や艦艇に肉薄し、専用の人型兵器でこれを叩く。攻撃型MSだった試作2号機もこれに倣い、人推力と重装甲、そして多様な弾体を射出可能な

人型ハスカーを装備する機体として、設計されている。『うなればそれは、ガンダムでありながら連邦軍版トム』に近いMSだった。ところが、この設計プランを見た連邦上層部のオーダーによって、このMSの存在意義は大きく変貌する。ある意味で、MSの枠さえ超える存在。核装備機となったのである。

核の力をもたらした運命

一年戦争当時、南緯条約で禁じられたにもかかわらず、ジオン軍高官の丁てたびたび使出された核兵器。戦後もその脅威を警戒した連邦軍は、先んじて試作2号機に核弾頭を与え、これを抑止力と監視戦力と位置づける。結果、核攻撃型MSという前代未聞の存在へ生まれ変わった2号機。たが、ミノフスキークリスタルでは1日限り可能な距離からの攻撃が必須のため、耐核性能を最重視して仕様を変更。機体剛性向上のためコア・ファイターが排除され、ホバー機構を収める予定だった脚部を冷却機構に割くため、推進装置は1部フレキシブル・スラスター・ハイランダーに統合された。こうして、点突撃からの核攻撃能力を得たその機体は、もはやMSというより旧世紀における原子力潜水艦と同種の、戦略兵器。となったのである。

たが、いちMSの枠を超えた戦略的価値は、さらなる運命の皮肉をもたらす。デラース・フリードが本機を強奪し、コンバート工場で連邦軍艦艇に核を究射したのだ。これにより連邦の参加艦艇は3分の2が壊滅。さらにその機体に乗じたデラース・フリードによる、第2のコロニー落としを招く結果となったのだ。

興味深いのは、この1連の作戦における試作2号機のMS撃破スコアである。旧ジオン軍のエース、アナベル・ガトー少佐が駆ったにもかかわらず、ジム改数機の撃破と試作1号機との相討ちに留まっているのである。新艦式にもたらした被害の大きさと対比すれば、いかに本機が従来のMSと異なる存在であつたかを理解できよう。

ジオン軍MSを祖に連邦軍の象徴として生まれ、核という究りに大きな力を有するがゆえにジオン軍艦隊の手には落ちた異端のMS。ただ1発の核の弾を打ち込まんとソロモンの宙を闊たしたその姿は、果たして連邦とジオン、どちらの象徴であつたのか？ 確かなのは、それが混沌の時代を映す鏡であつたということのみである。

MS-09 トム

燃料甲殻の面で試作2号機の祖となつたジオン軍の戦車。速力・防御力・そして火力を併せ持つ攻撃機であるが、機体は基本設計上、アトミックMS白兵戦すら可能だった。



トリントン基地において積み込まれた核弾頭。この一発が、試作2号機の運命を大きく変えることとなった。



連邦軍艦隊の防衛ラインを突破する2号機。一瞬の隙に核攻撃型MSの有用性は、皮肉にも敵の手で証明された。

RX-78GP02A PHYSALIS



SPEC

頭部高 1.1
 全高 1.8
 全幅 1.8
 重量 4000kg
 出力 10000W
 推力 10000kg
 装甲材質 鋼板
 装甲厚 10mm
 装甲色 白
 装甲形状 1

イラスト 小笠原智史

ガンダム試作2号機的设计思想

旧ジオン公国軍系の技術をもとに、攻撃型MSとして産声を上げた試作2号機。だが戦術核装備という仕様の変更は、単なる攻撃機として以上の役割と機能を、その身に与えることとなった。MSの歴史上でも他に類を見ない、極めて真質なる仕様の数々を、ひとつずつここに紐解いてみよう

攻撃機ならではの推進力設計

トムを祖とする、重攻撃機というコンセプト。フレキシブル・スラスタ・バンダーが、その名に相応しい推進力をもたらした

敵中絶への直撃攻撃を想定して開発された試作2号機には、一点突破を可能とする大推力が不可欠であった。だが本機の場合、通常メイン・スラスタを配する機体背部には戦術核を装備しているため、代わりに肩部にフレキシブル・スラスタ・バンダーを装備。内蔵シエネレーターと大型のスラスタにより、射撃装備による重量増加を過かに超えた無限の加速性能と、トムさながらの地上でのホバー推進能力を獲得している

フレキシブル・スラスタ・バンダー



片側に3基配置されたスラスタは90度の範囲で可動。バンダー自体も広範囲に動き、推進ベクトルを自在に制御しに変換できる。

宇宙空間では巨大なバンダーをAMBAC²作動機として活用し、180度の姿勢変換をわずか1秒で行うことができる。



徹底した耐核装備

比喩なき重装甲と、徹底的に突き詰められた冷却機能。それらは一とえに、提議距離からの核攻撃に配慮してのものであった。

ミノフスキー粒子の散布が常態化している戦場では、敵射撃による攻撃は、ある意味で旧世紀時代以上に困難である。レーダーによる長距離誘導が不可能となるため、目標可能距離から弾体を発射する以外に方法がなく、結果として発射プラットフォーム自身も格燃炎に巻き込まれる可能性が、極めて高いからした。そのため試作2号機では、装甲と冷却機能を徹底的に強化。格燃炎の衝撃波と高熱による自爆を防いでいる。とはいえ、さすがにMSに完全な耐核性を与えるのは無理だったように、これだけの対策をもってしてもなお、核戦時態勢後の試作2号機はかなりのダメージを被っている



地球圏近郊の戦況は、核攻撃をいっさい遠慮せず試作2号機。試作2号機は、これほどの衝撃波と高熱に耐えることも不可能である



コア・ファイター¹は格燃炎でありなかつ、ウェイトの減半は二重構造。ハッチはすべて防核。クサレ、パイロットを守る



このように配られた構造の中身は、1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. 16. 17. 18. 19. 20. 21. 22. 23. 24. 25. 26. 27. 28. 29. 30. 31. 32. 33. 34. 35. 36. 37. 38. 39. 40. 41. 42. 43. 44. 45. 46. 47. 48. 49. 50. 51. 52. 53. 54. 55. 56. 57. 58. 59. 60. 61. 62. 63. 64. 65. 66. 67. 68. 69. 70. 71. 72. 73. 74. 75. 76. 77. 78. 79. 80. 81. 82. 83. 84. 85. 86. 87. 88. 89. 90. 91. 92. 93. 94. 95. 96. 97. 98. 99. 100. 101. 102. 103. 104. 105. 106. 107. 108. 109. 110. 111. 112. 113. 114. 115. 116. 117. 118. 119. 120. 121. 122. 123. 124. 125. 126. 127. 128. 129. 130. 131. 132. 133. 134. 135. 136. 137. 138. 139. 140. 141. 142. 143. 144. 145. 146. 147. 148. 149. 150. 151. 152. 153. 154. 155. 156. 157. 158. 159. 160. 161. 162. 163. 164. 165. 166. 167. 168. 169. 170. 171. 172. 173. 174. 175. 176. 177. 178. 179. 180. 181. 182. 183. 184. 185. 186. 187. 188. 189. 190. 191. 192. 193. 194. 195. 196. 197. 198. 199. 200. 201. 202. 203. 204. 205. 206. 207. 208. 209. 210. 211. 212. 213. 214. 215. 216. 217. 218. 219. 220. 221. 222. 223. 224. 225. 226. 227. 228. 229. 230. 231. 232. 233. 234. 235. 236. 237. 238. 239. 240. 241. 242. 243. 244. 245. 246. 247. 248. 249. 250. 251. 252. 253. 254. 255. 256. 257. 258. 259. 260. 261. 262. 263. 264. 265. 266. 267. 268. 269. 270. 271. 272. 273. 274. 275. 276. 277. 278. 279. 280. 281. 282. 283. 284. 285. 286. 287. 288. 289. 290. 291. 292. 293. 294. 295. 296. 297. 298. 299. 300. 301. 302. 303. 304. 305. 306. 307. 308. 309. 310. 311. 312. 313. 314. 315. 316. 317. 318. 319. 320. 321. 322. 323. 324. 325. 326. 327. 328. 329. 330. 331. 332. 333. 334. 335. 336. 337. 338. 339. 340. 341. 342. 343. 344. 345. 346. 347. 348. 349. 350. 351. 352. 353. 354. 355. 356. 357. 358. 359. 360. 361. 362. 363. 364. 365. 366. 367. 368. 369. 370. 371. 372. 373. 374. 375. 376. 377. 378. 379. 380. 381. 382. 383. 384. 385. 386. 387. 388. 389. 390. 391. 392. 393. 394. 395. 396. 397. 398. 399. 400. 401. 402. 403. 404. 405. 406. 407. 408. 409. 410. 411. 412. 413. 414. 415. 416. 417. 418. 419. 420. 421. 422. 423. 424. 425. 426. 427. 428. 429. 430. 431. 432. 433. 434. 435. 436. 437. 438. 439. 440. 441. 442. 443. 444. 445. 446. 447. 448. 449. 450. 451. 452. 453. 454. 455. 456. 457. 458. 459. 460. 461. 462. 463. 464. 465. 466. 467. 468. 469. 470. 471. 472. 473. 474. 475. 476. 477. 478. 479. 480. 481. 482. 483. 484. 485. 486. 487. 488. 489. 490. 491. 492. 493. 494. 495. 496. 497. 498. 499. 500. 501. 502. 503. 504. 505. 506. 507. 508. 509. 510. 511. 512. 513. 514. 515. 516. 517. 518. 519. 520. 521. 522. 523. 524. 525. 526. 527. 528. 529. 530. 531. 532. 533. 534. 535. 536. 537. 538. 539. 540. 541. 542. 543. 544. 545. 546. 547. 548. 549. 550. 551. 552. 553. 554. 555. 556. 557. 558. 559. 560. 561. 562. 563. 564. 565. 566. 567. 568. 569. 570. 571. 572. 573. 574. 575. 576. 577. 578. 579. 580. 581. 582. 583. 584. 585. 586. 587. 588. 589. 590. 591. 592. 593. 594. 595. 596. 597. 598. 599. 600. 601. 602. 603. 604. 605. 606. 607. 608. 609. 610. 611. 612. 613. 614. 615. 616. 617. 618. 619. 620. 621. 622. 623. 624. 625. 626. 627. 628. 629. 630. 631. 632. 633. 634. 635. 636. 637. 638. 639. 640. 641. 642. 643. 644. 645. 646. 647. 648. 649. 650. 651. 652. 653. 654. 655. 656. 657. 658. 659. 660. 661. 662. 663. 664. 665. 666. 667. 668. 669. 670. 671. 672. 673. 674. 675. 676. 677. 678. 679. 680. 681. 682. 683. 684. 685. 686. 687. 688. 689. 690. 691. 692. 693. 694. 695. 696. 697. 698. 699. 700. 701. 702. 703. 704. 705. 706. 707. 708. 709. 710. 711. 712. 713. 714. 715. 716. 717. 718. 719. 720. 721. 722. 723. 724. 725. 726. 727. 728. 729. 730. 731. 732. 733. 734. 735. 736. 737. 738. 739. 740. 741. 742. 743. 744. 745. 746. 747. 748. 749. 750. 751. 752. 753. 754. 755. 756. 757. 758. 759. 760. 761. 762. 763. 764. 765. 766. 767. 768. 769. 770. 771. 772. 773. 774. 775. 776. 777. 778. 779. 780. 781. 782. 783. 784. 785. 786. 787. 788. 789. 790. 791. 792. 793. 794. 795. 796. 797. 798. 799. 800. 801. 802. 803. 804. 805. 806. 807. 808. 809. 810. 811. 812. 813. 814. 815. 816. 817. 818. 819. 820. 821. 822. 823. 824. 825. 826. 827. 828. 829. 830. 831. 832. 833. 834. 835. 836. 837. 838. 839. 840. 841. 842. 843. 844. 845. 846. 847. 848. 849. 850. 851. 852. 853. 854. 855. 856. 857. 858. 859. 860. 861. 862. 863. 864. 865. 866. 867. 868. 869. 870. 871. 872. 873. 874. 875. 876. 877. 878. 879. 880. 881. 882. 883. 884. 885. 886. 887. 888. 889. 890. 891. 892. 893. 894. 895. 896. 897. 898. 899. 900. 901. 902. 903. 904. 905. 906. 907. 908. 909. 910. 911. 912. 913. 914. 915. 916. 917. 918. 919. 920. 921. 922. 923. 924. 925. 926. 927. 928. 929. 930. 931. 932. 933. 934. 935. 936. 937. 938. 939. 940. 941. 942. 943. 944. 945. 946. 947. 948. 949. 950. 951. 952. 953. 954. 955. 956. 957. 958. 959. 960. 961. 962. 963. 964. 965. 966. 967. 968. 969. 970. 971. 972. 973. 974. 975. 976. 977. 978. 979. 980. 981. 982. 983. 984. 985. 986. 987. 988. 989. 990. 991. 992. 993. 994. 995. 996. 997. 998. 999. 1000. 1001. 1002. 1003. 1004. 1005. 1006. 1007. 1008. 1009. 1010. 1011. 1012. 1013. 1014. 1015. 1016. 1017. 1018. 1019. 1020. 1021. 1022. 1023. 1024. 1025. 1026. 1027. 1028. 1029. 1030. 1031. 1032. 1033. 1034. 1035. 1036. 1037. 1038. 1039. 1040. 1041. 1042. 1043. 1044. 1045. 1046. 1047. 1048. 1049. 1050. 1051. 1052. 1053. 1054. 1055. 1056. 1057. 1058. 1059. 1060. 1061. 1062. 1063. 1064. 1065. 1066. 1067. 1068. 1069. 1070. 1071. 1072. 1073. 1074. 1075. 1076. 1077. 1078. 1079. 1080. 1081. 1082. 1083. 1084. 1085. 1086. 1087. 1088. 1089. 1090. 1091. 1092. 1093. 1094. 1095. 1096. 1097. 1098. 1099. 1100. 1101. 1102. 1103. 1104. 1105. 1106. 1107. 1108. 1109. 1110. 1111. 1112. 1113. 1114. 1115. 1116. 1117. 1118. 1119. 1120. 1121. 1122. 1123. 1124. 1125. 1126. 1127. 1128. 1129. 1130. 1131. 1132. 1133. 1134. 1135. 1136. 1137. 1138. 1139. 1140. 1141. 1142. 1143. 1144. 1145. 1146. 1147. 1148. 1149. 1150. 1151. 1152. 1153. 1154. 1155. 1156. 1157. 1158. 1159. 1160. 1161. 1162. 1163. 1164. 1165. 1166. 1167. 1168. 1169. 1170. 1171. 1172. 1173. 1174. 1175. 1176. 1177. 1178. 1179. 1180. 1181. 1182. 1183. 1184. 1185. 1186. 1187. 1188. 1189. 1190. 1191. 1192. 1193. 1194. 1195. 1196. 1197. 1198. 1199. 1200. 1201. 1202. 1203. 1204. 1205. 1206. 1207. 1208. 1209. 1210. 1211. 1212. 1213. 1214. 1215. 1216. 1217. 1218. 1219. 1220. 1221. 1222. 1223. 1224. 1225. 1226. 1227. 1228. 1229. 1230. 1231. 1232. 1233. 1234. 1235. 1236. 1237. 1238. 1239. 1240. 1241. 1242. 1243. 1244. 1245. 1246. 1247. 1248. 1249. 1250. 1251. 1252. 1253. 1254. 1255. 1256. 1257. 1258. 1259. 1260. 1261. 1262. 1263. 1264. 1265. 1266. 1267. 1268. 1269. 1270. 1271. 1272. 1273. 1274. 1275. 1276. 1277. 1278. 1279. 1280. 1281. 1282. 1283. 1284. 1285. 1286. 1287. 1288. 1289. 1290. 1291. 1292. 1293. 1294. 1295. 1296. 1297. 1298. 1299. 1300. 1301. 1302. 1303. 1304. 1305. 1306. 1307. 1308. 1309. 1310. 1311. 1312. 1313. 1314. 1315. 1316. 1317. 1318. 1319. 1320. 1321. 1322. 1323. 1324. 1325. 1326. 1327. 1328. 1329. 1330. 1331. 1332. 1333. 1334. 1335. 1336. 1337. 1338. 1339. 1340. 1341. 1342. 1343. 1344. 1345. 1346. 1347. 1348. 1349. 1350. 1351. 1352. 1353. 1354. 1355. 1356. 1357. 1358. 1359. 1360. 1361. 1362. 1363. 1364. 1365. 1366. 1367. 1368. 1369. 1370. 1371. 1372. 1373. 1374. 1375. 1376. 1377. 1378. 1379. 1380. 1381. 1382. 1383. 1384. 1385. 1386. 1387. 1388. 1389. 1390. 1391. 1392. 1393. 1394. 1395. 1396. 1397. 1398. 1399. 1400. 1401. 1402. 1403. 1404. 1405. 1406. 1407. 1408. 1409. 1410. 1411. 1412. 1413. 1414. 1415. 1416. 1417. 1418. 1419. 1420. 1421. 1422. 1423. 1424. 1425. 1426. 1427. 1428. 1429. 1430. 1431. 1432. 1433. 1434. 1435. 1436. 1437. 1438. 1439. 1440. 1441. 1442. 1443. 1444. 1445. 1446. 1447. 1448. 1449. 1450. 1451. 1452. 1453. 1454. 1455. 1456. 1457. 1458. 1459. 1460. 1461. 1462. 1463. 1464. 1465. 1466. 1467. 1468. 1469. 1470. 1471. 1472. 1473. 1474. 1475. 1476. 1477. 1478. 1479. 1480. 1481. 1482. 1483. 1484. 1485. 1486. 1487. 1488. 1489. 1490. 1491. 1492. 1493. 1494. 1495. 1496. 1497. 1498. 1499. 1500. 1501. 1502. 1503. 1504. 1505. 1506. 1507. 1508. 1509. 1510. 1511. 1512. 1513. 1514. 1515. 1516. 1517. 1518. 1519. 1520. 1521. 1522. 1523. 1524. 1525. 1526. 1527. 1528. 1529. 1530. 1531. 1532. 1533. 1534. 1535. 1536. 1537. 1538. 1539. 1540. 1541. 1542. 1543. 1544. 1545. 1546. 1547. 1548. 1549. 1550. 1551. 1552. 1553. 1554. 1555. 1556. 1557. 1558. 1559. 1560. 1561. 1562. 1563. 1564. 1565. 1566. 1567. 1568. 1569. 1570. 1571. 1572. 1573. 1574. 1575. 1576. 1577. 1578. 1579. 1580. 1581. 1582. 1583. 1584. 1585. 1586. 1587. 1588. 1589. 1590. 1591. 1592. 1593. 1594. 1595. 1596. 1597. 1598. 1599. 1600. 1601. 1602. 1603. 1604. 1605. 1606. 1607. 1608. 1609. 1610. 1611. 1612. 1613. 1614. 1615. 1616. 1617. 1618. 1619. 1620. 1621. 1622. 1623. 1624. 1625. 1626. 1627. 1628. 1629. 1630. 1631. 1632. 1633. 1634. 1635. 1636. 1637. 1638. 1639. 1640. 1641. 1642. 1643. 1644. 1645. 1646. 1647. 1648. 1649. 1650. 1651. 1652. 1653. 1654. 1655. 1656. 1657. 1658. 1659. 1660. 1661. 1662. 1663. 1664. 1665. 1666. 1667. 1668. 1669. 1670. 1671. 1672. 1673. 1674. 1675. 1676. 1677. 1678. 1679. 1680. 1681. 1682. 1683. 1684. 1685. 1686. 1687. 1688. 1689. 1690. 1691. 1692. 1693. 1694. 1695. 1696. 1697. 1698. 1699. 1700. 1701. 1702. 1703. 1704. 1705. 1706. 1707. 1708. 1709. 1710. 1711. 1712. 1713. 1714. 1715. 1716. 1717. 1718. 1719. 1720. 1721. 1722. 1723. 1724. 1725. 1726. 1727. 1728. 1729. 1730. 1731. 1732. 1733. 1734. 1735. 1736. 1737. 1738. 1739. 1740. 1741. 1742. 1743. 1744. 1745. 1746. 1747. 1748. 1749. 1750. 1751. 1752. 1753. 1754. 1755. 1756. 1757. 1758. 1759. 1760. 1761. 1762. 1763. 1764. 1765. 1766. 1767. 1768. 1769. 1770. 1771. 1772. 1773. 1774. 1775. 1776. 1777. 1778. 1779. 1780. 1781. 1782. 1783. 1784. 1785. 1786. 1787. 1788. 1789. 1790. 1791. 1792. 1793. 1794. 1795. 1796. 1797. 1798. 1799. 1800. 1801. 1802. 1803. 1804. 1805. 1806. 1807. 1808. 1809. 1810. 1811. 1812. 1813. 1814. 1815. 1816. 1817. 1818. 1819. 1820. 1821. 1822. 1823. 1824. 1825. 1826. 1827. 1828. 1829. 1830. 1831. 1832. 1833. 1834. 1835. 1836. 1837. 1838. 1839. 1840. 1841. 1842. 1843. 1844. 1845. 1846. 1847. 1848. 1849. 1850. 1851. 1852. 1853. 1854. 1855. 1856. 1857. 1858. 1859. 1860. 1861. 1862. 1863. 1864. 1865. 1866. 1867. 1868. 1869. 1870. 1871. 1872. 1873. 1874. 1875. 1876. 1877. 1878. 1879. 1880. 1881. 1882. 1883. 1884. 1885. 1886. 1887. 1888. 1889. 1890. 1891. 1892. 1893. 1894. 1895. 1896. 1897. 1898. 1899. 1900. 1901. 1902. 1903. 1904. 1905. 1906. 1907. 1908. 1909. 1910. 1911. 1912. 1913. 1914. 1915. 1916. 1917. 1918. 1919. 1920. 1921. 1922. 1923. 1924. 1925. 1926. 1927. 1928. 1929. 1930. 1931. 1932. 1933. 1934. 1935. 1936. 1937. 1938. 1939. 1940. 1941. 1942. 1943. 1944. 1945. 1946. 1947. 1948. 1949. 1950. 1951. 1952. 1953. 1954. 1955. 1956. 1957. 1958. 1959. 1960. 1961. 1962. 1963. 1964. 1965. 1966. 1967. 1968. 1969. 1970. 1971. 1972. 1973. 1974. 1975. 1976. 1977. 1978. 1979. 1980. 1981. 1982. 1983. 1984. 1985. 1986. 1987. 1988. 1989. 1990. 1991. 1992. 1993. 1994. 1995. 1996. 1997. 1998

Weapons of RX-78GP02A

試作2号機の装備と武装は、ほぼ核攻撃能力に特化したものである。それは、もはや本機がMSの枠を超えた「戦略兵器」であることの証左なのだ。

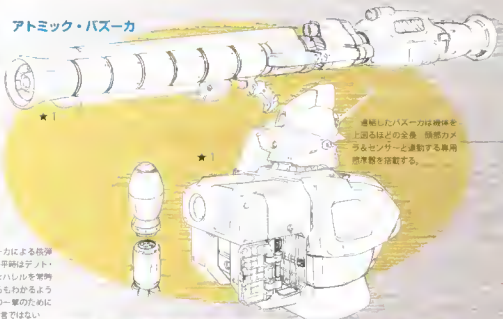
戦術核装備

試作2号機に搭載されたのは、自己拘束型熱核爆弾のMk-82核弾頭。内部のミノスキー粒子線透過層が核反応による電磁場で爆発後も維持されるため、数秒間にわたって核の炎が燃れ尽く。このため分類上、あるいは運用上も戦術核だが、威力に関しては戦略核にも比肩し得る。通常この弾頭は、バズーカ基盤のランチャーカマウントされた背部バックパック内に収納。発射時にはまずこのランチャーに弾頭が移動し、続いて専用シート裏に格納されたパレールを連絡すれば準備完了となる。なお、発射そのものはバズーカによって行われるが、その後は弾頭に装備された推進装置によって、自力で目標へ向かうことが可能だ。

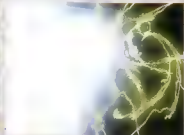


アトミック・バズーカによる核弾頭発射シーケンス。平時はデイト・ウェイトとなる長大なパレールを常時携行していることからわかるように、機体すべてがこの一撃のために存在すると言っても過言ではない。

アトミック・バズーカ



連絡シノパースは機体を上回るほどの全長。後部カメラとセンサーと連動する専用推進器を搭載する。



防衛及び冷却装備

試作2号機のシールドは、目視可能距離からの核攻撃時に自らも浴びざるを得ない衝撃波と熱から、機体を守るためのもの。ゆえにその面積は、保持角度によってはほぼ機体全体が隠れるほど大きい。さらに内部には、MS本体に収まりきらなかった大型冷却装置を搭載。液体窒素によって強制的かつ瞬時の機体温度低下を可能とした。ただし代償として、シールドが破壊すれば核攻撃は不可能となる。その意味ではこのシールドは、もはや他のMSが持つような防衛的な敵弾防御装備ではなく、核攻撃用のサブシステムと捉えるべきものとも言える。

ラジエーター・シールド



シールド内の冷却装置は、過熱状態時にも活用可能。もはや動力系の一環とすら言える。



ビーム兵器

ビーム・サーベル

白兵戦用にビーム・サーベルを2本携行。任務を考えればあくまで補助兵器ではあるが、通常のそれより強力で出力調整も可能なタイプのため、パイロットの投量によっては、強力な銃剣となる。



ビームの運ぶ色はピンクではなく、橙・赤以上の高出力を視覚化する。

実弾兵器

頭部バルカンを

連邦軍MSの標準的な装備である、頭部60mmバルカン砲も搭載。とはいえ、威力の点でMS相手には効果が薄く、航空機や宇宙戦闘機は推力で振り切れるため、使用機会は極めて少ないと思われる。

一応突撃に特化した機体の仕様から考えて、主な用途は牽制であろう。



MSとMAが融合したガンダム

宇宙用機動兵器の歴史の中で、他に類を見ないほど巨大なMSとなった、ガンダム試作3号機。このあまりにも異様な機体は、果たしたどのような状況下で、そしてどのような発想から誕生したのだろうか。その流れを追ってみよう。

構成・文：石井 誠

MSがもたらした戦果とMAの恐怖の記憶

一年戦争後に実施された地球連邦軍再建計画においては、人権回復主義（MSによって長年被害を受けた人権回復）の認識を捨てられなかったのだと、MSを戦力の中心に据える方針とが立っていた。そのうち、後者に基づき実施されたのが、複数のMSを収容・運用することを前提とした機動降陸艦アルビオンと、タイフの異なる3機のガンダムを試作した「ガンダム開発計画」である。

この計画のなか、全長140mにも及ぶ特異なガンダムは、いかにして生まれたのか。

試作1号機と同じく、アナハイム・エレクトロニクス社「クラブ・ワークス」が開発を担当したこの機体は、一年戦争後期にジオン軍が戦線に投入していたMAを基にしている。宇宙戦闘機並みの機動性をとし、強力な光束砲を余裕でドライブするこの機動兵器によって与えられた恐怖は、



巨大な花冠を思わせるアーミー。その中央部に置かれたMS。この試作機1機の「ガンダム」の名。



ステイタスはMS並みの状態においても、ガンダム試作1号機のフルパワーで戦闘に匹敵する機動性を有している。

連邦軍にとって忘れ難いものだったのだ。ただしひとつ懸念事項が存在した。それは、慣への侵入を許した場合にMAが見せる、意外なほどの脆さだった。

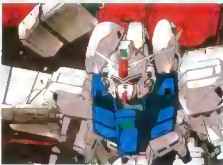
そこで試みられたのが、MSとMAの融合であった。MAのコアとなる部分にMSを搭載して接近戦に対応し、MSとの近接戦闘ではコア・ユニットを分離し、純粋にMSとして迎撃を可能とする。こうした発想をもとに本機は、「ガンダム」を中心に据えた。巨大MAというコンセプトを持つに至った。

宇宙を駆ける武器庫と呼ばれた戦略兵器

ガンダム試作3号機「通称デンドロビウム（若生ランを意味する）」は、巨大なメガ・ビーム砲、戦況に応じて多彩な攻撃を可能とする武装を搭載したコンテナ、膨大な推進力を生む機関部、そして巨体を守る1フィート発生器を取り付けたアームドベース、オーキス（野生の地生ランを意味する）と、その中心部に位置し、火器管制と対MS戦闘を果たすガンダムタイプのMS、ステイメン（花の雄しべを意味する）の、2つのユニットで構成される。

この新たな機動兵器は、単体で戦略兵器としての運用が可能だった。本来、拠点防衛用としての効果を期待された本機だったが、その仕様は、簡

オーキスの中心に位置し、機体と火器の管制を司るステイメンは、デンドロビウムの中核的存在



点攻撃も可能とした。何しろ、高加速して一気に前線に突入し、「宇宙を駆ける武器庫」とすら呼べるほど満載した武装にものをいわせて周囲の敵を殲滅。さらにはコア・ユニットであるステイメンにより、MSとの格闘戦までこなすのだから。

デラズ紛争において「星の討伐戦」阻止のため非公式に出撃した際には、わずか数時間の戦闘の間に、大隊級のMS部隊と、さらには10隻近い戦艦を殲滅させている。

だが、母艦へと収容することすら叶わぬ巨体と、莫大な手間と費用を必要とする補給・整備の問題が、このMS史上もっとも稀有な存在と言えるガンダムのコンセプトを、次世代に引き継ぐことを許さなかった。

かくして、MSとMAの融合により生まれた超弩級の機動兵器は、星屑のように消えた。

SPEC

全長 140.0m（本体全長 73.0m）全高 35.5m 全幅 62.0m
 本体重量 226.4t 全機重量 453.1t シェネレーター出力 38,000kW
 スラスター推力 2,265,000kg（177,500×6） 装甲材質 アルミ・チタニウム合金
 武装 メガ・ビーム砲
 大型ビーム・サーベル×2
 推進機×2
 マイクロ・ミサイル・コンテナ×2（コンテナ1基あたりの弾数は108発）
 大型機動ミサイル・セット×2
 1フィート発生器
 フレア・ディスベンサー
 他、ステイタンの武装を使用可能

RX-78GP03 DENDROBIUM

SPEC

頭高 18.0m
 本体重量 41.6t
 全長 70.0m
 主スラスター出力 2000kW
 スラスター推力 188,000kg
 センサー有効半径 15,000m
 装甲材質 ルナ・チタニウム合金
 武装 ビーム・サーベル×2
 ビーム・ライフル
 フォールディング・バズーカ×2
 フォールディング・ガン 1挺
 ハイパー・バズーカ

イラスト・小笠原智史

RX-78GPO35 STAMEN

ガンダム試作3号機的设计思想

M5とM4の特性を併せ持たせることで、極端まで高い汎用性を実現しようとした本機。核となるM5=スライメンと、大型ジェネレーターと推進器を有する武器庫=オーキスという2つのユニットで構成された、宇宙世紀の歴史上で最大級の大きさを持つ機動兵器の設計思想を見ていこう。

単体でも高性能を発揮する中枢ユニット

本機は、火器管制用のメイン・ユニットとしての役割だけでなく、優れた白兵戦能力と機動性を持った、高性能M5としての一面も持つ。

スライメンは、火器管制と接近戦を行ない、さらには緊急時のメンテナンスを行うためのメンテナンスを行うための機体としても機能するように設計されており、非常時にはパイロットの脱出システムとしても用いられる。むしろM5単体としても、ガンダムの名に恥じることのない性能を持つ。なおオーキスとのドッキングは、テール・スタビレーターを介して行う。

テール・スタビレーター

背中に装着している大型スラスタ。ユニット自体が可動し、その質量を生かしてAMBACを構成することが可能で、運動性の向上に役立っている。



★1

フォールディング・アーム

前腕部を収納させて使用する。マヒレーター、オーキスの中心に位置した状態のままウェポン・コンテナから武装を取り出すための、短気アームとして機能する。

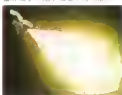
アームドベースという最強の機動兵器

ガンダム試作3号機の外殻となるのが、さまざまな機能を満載した全長140cmにも及ぶ巨大なアームドベース、オーキスである。

オーキスは推進器を持つ本体に、ウェポン・コンテナ、メガ・ビーム砲、フィールド発生装置といったユニット群が合体して構成されている。大きな攻撃力と防御力、そして移動能力は、一年戦争時に地球連邦軍を恐れさせた。旧ジオン公国軍のM4を彷彿とさせる。さらにスライメンの存在によって対M5戦にも対応可能な汎用兵器として機能する。その多彩な能力により、戦場において本機は、ほぼ無敵の機動兵器と化す。

長距離砲撃能力

M5の機体武装では不可能な、長距離砲撃を実現する超ロングレンジの大型メガ・ビーム砲を装備。機体相手の砲撃戦も十分可能。



ウェポン・コンテナ

増体上部のウェポン・コンテナには、近接用、対艦用、対M5用などの多彩な武装を収納。状況に応じて使い分けられるようにした。



フィールド発生器

大型ジェネレーターを駆使しているため、ビーム攻撃を無効化する、強力なフィールド発生装置を装備。アビリティ。



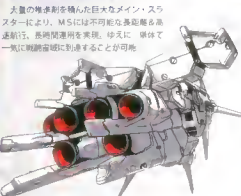
長距離・高加速推進システム

大量の推進剤を積んだ巨大なメイン・スラスタにより、M5には不可能な長距離・高加速航行、長時間運用を実現。ゆえに単体で一気に戦線最前線に到達することが可能。



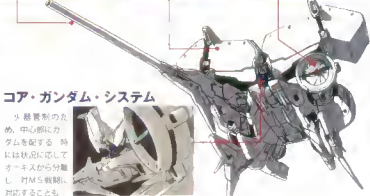
全天周型モニター

機体の前後左右に張り巡らせたモニターに、CG処理を施した機体の映像やさまざまな情報を投影する。全天周型モニターを採用。



コア・ガンダム・システム

火器管制のため、中心部にコア・システムを配する。時には状況に応じてオーキスから分離し、対M5戦闘に対応することも。



Weapons of RX-78GP03

あらゆる状況下で、もっとも強力な機体であることを義務づけられた“宇宙を駆ける武器庫”。そこに搭載された、武装の数々を見ていこう。

ビーム兵器

オーキスとステイメンは、それぞれがビーム兵器を運用することが可能となっている。そのためガンダム試作3号機に搭載されたビーム兵器は、規格外の巨大なものから、MSの携行用サイズのものまで揃っている。

ビーム・サーベル

ステイメンのバウハウに、2本内蔵されている。本機の専用装備ではなく、この時期の地球連邦軍主力MSと同じ規格のものが装備されている。



メカ・ビーム砲

70mmに及ぶ砲身を持つ、戦艦主砲クラスのメカ砲である。ステイメンがコントロールダリッパで射撃時の震動を抑える。



クロ-&大型ビーム・サーベル

オーキスの下部にある巨大アーチ。内部には大型ビーム・サーベルを内蔵し、その巨大なビーム力で高エネルギークラスなら切断が可能。



ビーム・ライフル

ウェポン・コンテナに収納されている。ステイメン用の選別、流注が可能な中距離での射撃M5射などで使用する。

実弾兵器

ウェポン・コンテナには、さまざまな状況に対応可能な実弾兵器が搭載されている。直線的、かつ局所的な攻撃が行えないビーム兵器に対し、実弾兵器はその種類によって、状況に合わせた多彩な攻撃が可能であり、その実弾兵器の多彩さが本機の高い汎用性を支えている。

フォールディング・バズーカ

ウェポン・コンテナに収納された折り畳み式バズーカ砲。対ビーム防御機能を持つ相手や中距離射撃で使用する。オーキスにも、インストールしたままで使える。



大型集束ミサイル

ウェポン・コンテナに3基1セットで収納されている長距離用ミサイル。発射後に分離し、目標付近で爆発してダメージを与える。



マイクロ・ミサイル

ウェポン・コンテナにミサイルを収めた発射器部と弾に収納。発射後、周囲にミサイルを放出し、広範囲に攻撃を行う。



増導索

艦首を内蔵したワイヤー状の武器。射出すると目標に絡まり、次々と絞束してダメージを与える。艦尾など大型の目標に使用。

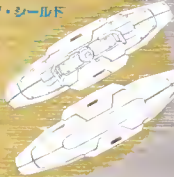


防御装備

【フィールド発生装置と弾倉を併用するマイクロミサイルの装備により、ほとんど敵撃とすら見える防御機構を持つデンドロビウムだが、ステイメン単独での運用時のために、一般的なMS用飛行防御装備も有する。

フォールディング・シールド

ステイメンの防御装備。ウェポン・コンテナに中央から2つ折りされた状態で収納されている。ステイメンがオーキスから分離した後に使用する。



究極の多機能化をめざしたガンダム

第1次ネオ・ジオン戦争開始前後、M.S.のニーズは大きく様変わりし、それに伴ってM.S.開発は激動の時代を迎えていた。過熱する開発競争による恐竜的ともいえる進化の渦中に誕生し、その頂点に立った機体——その究極的な進化の背景に迫る。

構成・文：石井 誠

Zガンダムを超える 多機能型ガンダムの模索

U.C.0087年 エウゴとアナハイム・エレクトロニクス社は、次世代の超高性能M.S.開発計画、Zプロジェクトを断行させていた。

旧ジオンの技術から生まれた新素材、ガンダリウムγと、ティターンズから奪取したガンダム Mk IIが採用していたムハブル・フレーム技術を使用し、その機体は完成した。ウェーブライダーと呼ばれる巡航形態への変形機構を持ち、宇宙空間から重力下までの運動運用が可能な汎用型M.S.、Zガンダムだ。エウゴのフラッグシップ機として、Zガンダムはグリプス戦役を戦い抜く

だが、多機能化や高出力化、重武装化といったM.S.への要求は膨れあがる一方で、止むことを知らなかった。なぜならM.S.開発において、旧ジオンと連年の技術の融合が著しい成果をあげはじめていたからである。また、この時代の戦争が、一年戦争のように人類を二分するようなものではなく、M.S.1機ごとの性能差が勝敗を決めうる規模のものだったためでもある。恐竜が進化の末に巨大化し、地球の生態系の頂点を極めたように、より強く大きなM.S.が、戦場の支配者となったのだ。第1次ネオ・ジオン戦争の時代になると、この傾向はますます激しくなり、Zガンダムはやはり1年たらずで、旧世代機扱いされることとなった。

そうした中でA.E.社は、月のグラナダ工場において、Zプロジェクトの総決算とも言えるべき、θガンダムの開発をはじめた。その基本コンセプトは「RX-78ガンダムの復活」。Zガンダム開発で培った技術をベースに、可変機能を進化させつつ、RX-78の支援メカ、Gアーマーも取り込んだ。新たなガンダムを造りたいとしていたのだ。

MSの恐竜的進化の先に 生まれたガンダム

RX-78の高い汎用性に加え、重火力・重武装、巡航性能のアップによる運用性の拡張といったGパーツがもたらした要素をすべて、最新の技術をもって単機で実現するM.S.として、本機の開発は進められた。

やがて完成したθガンダムは、Zガンダムを超えるものとして「Zガンダム」の名を与えられた。機体はRX-78同様に3つのモジュールで構成されており、重戦国機コア・トップを中心に、重攻撃機コア・ベース、ネオ・コア・ファイターの3機が合体してM.S.形態が完成する。また、合体時には重砲撃機Gフォートレスという巡航形態を取ることも可能である。

武装に關して述べると、舊行ビーム兵器はほろん、M.S.の固定武装としては最大の出力を誇るハイ・メガ・キャノン、大型ミサイル・ランチャー



RX-78-2ガンダム（標準形態）

など、大型M.S.が跋扈する戦場に対応した、数々の専用のもが用意されている。

かくしてZガンダムは第1次ネオ・ジオン戦争において、ガンダムの名に恥じない活躍をする

だが本機のようなM.S.の恐竜的進化は、第1次ネオ・ジオン戦争の終結と共に、突如として終わりを告げる。まるで、巨大化し栄華を誇った恐竜たちが、一気に絶滅への道をたどったように。

開発や製造にかかる費用は天知らずに高騰し続け、多機能を求めたために操縦系はセンシティブかつ複雑なものとなり、パイロットへの負担は増大。メンテナンスにも高価な技術と高いコストを要する……このころのM.S.は、戦後の疲弊した連邦軍には運用しきれないものになっていたのだ。

こうして、Zガンダムが進化の果てに到達したM.S.の在り方は、継承されることが歴史の中に消え、Zプロジェクトも幕を閉じた。

第1次ネオ・ジオン戦争

グリプス戦役後に、地球圏に居座っていた旧ジオン公国残存勢力の拠点・アランズ・ハーモン・カーン集いるこの一大勢力は、エウゴとティターンズの戦いに介入しながらも、戦力を温存。エウゴが敗退しつつも戦いに勝利したのを契機に、地球連邦政府に対してネオ・ジオンとして宣戦布告し、さらなる戦火を巻き起こした。機体化した地球連邦軍とエウゴは充分な反撃ができず、ネオ・ジオンは地球連邦軍を進めていった。そんななか、ネオ・ジオン内部でグレミー・トド率いる一派が決裂。地球連邦軍、ハーモン、グレミー一派の3勢力による戦いが繰り広げられた。結果、ネオ・ジオン内部のふたつの勢力は同士討ち的な状況となり、連邦軍は幸くもその危機を脱したのだ。

グリプス戦役を引き
続いて戦闘状態

ネオ・ジオン主流派

指導者：ハマーン・カーン

ザビ家再興を胸に地球圏に突った主流派

アクシズは、もともとザビ家再興の名の下に密着していた勢力。ハマーン・カーンを指導者として行動していたが、その内情はともないうちに、反乱勢力を止めることができなかった。



思想の違いから分裂し
戦闘状態に

地球連邦軍（エウゴ）

連続した戦いで疲弊した軍隊

ティターンズを倒し、本来の目的を達成したのも束の間、ネオ・ジオンが宣戦布告、多くの人員を失ったため、民間人からの軍への臨時雇用も行われており、勢力としてはかなり弱まっていた。

排除すべき
敵対

ネオ・ジオン反乱派

指導者：グレミー・トド

ザビ家の血筋にこだわる決起軍

ザビ家の血にこだわり、ハマーンに反旗を翻した一派。クローン技術によって生まれた人工ニュータイプによる部隊を擁し、ハマーン、連邦軍の両方に刃を向ける。



ZZガンダム of 設計思想

高い汎用性と高出力、高火力化の頂点をめざした機体、Zガンダムの設計思想を見てこう

複数形態への合体・変形

「RX-78の復活」を掲げ、Gパーツのコンセプトを採用したことが、本機の合体・変形機構を実現させた。

M5の多機能化や武装強化が進む中、Zガンダムはさらなる汎用性を求め、M5単体による「RX-78ガンダムとGパーツの融合」を目標に開発が進められた。当初は2機の航空戦闘機で構成されるはずだったが、充分なスラスタ出力を得ることができなかったため、制空ユニットとしてネオ・コア・ファイターを追加採用することとなった。機体の大型化と大火力化は、より高いジェネレーター出力を求んでいたのだ。

FXA-07GB

ネオ・コア・ファイター

SPEC

全高 11.0m
全幅 15.8m
全重量 11.4t
スラスター出力 20,000kg
装甲材質 ガンダム用合金
武装 ミサイル・ランチャー×2



コア・トップ、コア・ベースと共通の制御ユニットで本機の中核となる。ハイオクセンサーを搭載

MSZ-010 Gフォートレス

SPEC

全高 16.5m
全幅 20.0m
全重量 66.4t
スラスター出力 3400kg
スラスター出力 60,000kg
装甲材質 ガンダム用合金
武装 ミサイル・ランチャー×2
ミサイル・ランチャー×2
ミサイル・ランチャー×2



このガンダムの前身、機体開発初期はM5単体での航続時間と移動距離、加速性能が伸びたことで運用の場が広がった。機体性能は低く、特に対M5戦闘時には分離して運用されることも多い

コア・トップ

SPEC

全高 1.0m
全幅 0.5m
全重量 0.1t
スラスター出力 100kg
スラスター出力 100kg
装甲材質 ガンダム用合金
武装 ミサイル・ランチャー×2



上半身のバリエーションが変化した戦闘形態。ダブル・ヒーム・ライフルによる高い攻撃能力と、高い機動性を持ち、飛行戦闘時は航空戦闘機として活躍する

コア・ベース

SPEC

全高 4.0m
全幅 1.0m
全重量 4.0t
スラスター出力 100kg
スラスター出力 100kg
装甲材質 ガンダム用合金
武装 ミサイル・ランチャー×2



下半身のバリエーションが変化した攻撃機形態。機動性はコア・トップにも劣るものの、ダブル・ヒーム・ミサイル・ランチャーを持ち、対艦・対空攻撃に優れる

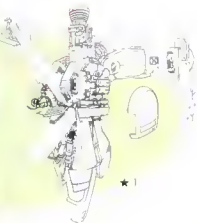
大型化で可能となった より複雑な可変システム

従来の可変M5を超える大出力化と、複雑な変形システムの採用を可能とした要因は？

機体の大型化は、M5形態時のスラスターの収納、逆に飛行形態時の胴部や手足の収納といった、複雑な変形機構の導入を可能とした。それにより、形態を変えた時に特定の部位が削ぎ出さなくなった必要パーツと化すことを、避けることができた。これはもちろん、進歩したムーブビルフレーム技術の成果の賜でもある。



変形・合体機構とつた高機能化の代価として、開発・製造コストの増大の上昇、そして整備性、運用性の低下を招いた。



機体強化による さらなる進化

進化の頂点に立ったZガンダムも、激化する戦闘の前に、さらなる強化を余蘊なくしていた。

当時のM5としては進化の最先端に到達していたZガンダム。しかし、開発期間の短さや複雑な変形システムに起因するいくつかの問題点も抱えていた。変形システムの影響により胴部の装甲は脆弱だった。また、エネルギー消費量が高いために最大出力での運用時間も短かった。そうした弱点を補い、M5形態でその能力を最大限に発揮させるため、Zガンダムは機体の改良とフルアーマー化が施され、新たな進化が促されたのだ。

MSZ-010S 強化型Zガンダム



SPEC

全高 11.0m
全幅 15.8m
全重量 11.4t
スラスター出力 20,000kg
スラスター出力 20,000kg
装甲材質 ガンダム用合金
武装 ミサイル・ランチャー×2
ミサイル・ランチャー×2
ミサイル・ランチャー×2

機体18ヶ月、開発期間18ヶ月、開発期間18ヶ月

ハルバタのスラスターの追加、ミサイル・ランチャーの大型化、機体アーマーの増設が機体の強化に役立った

FA-010S フルアーマーZガンダム



SPEC

全高 11.0m
全幅 15.8m
全重量 11.4t
スラスター出力 20,000kg
スラスター出力 20,000kg
装甲材質 ガンダム用合金
武装 ミサイル・ランチャー×2
ミサイル・ランチャー×2
ミサイル・ランチャー×2

増設装甲、武装強化を施され、さらにはパワーアップも追加装備された。いわばZガンダムの最終形態

Weapons of MSZ-010

ガンダム単体としては、最大の火力を身につけたZガンダム。MSが辿った恐竜的進化の流れの中で装備された、武装の数々を見ていこう。

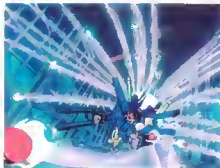
高性能化&高出力化 した武装の数々

MSとその武装に、ひたすら高性能化、高出力化を求める時代に誕生したZガンダムも、その風潮にあわせた武装を与えられている。さらにそれらは、当時のMSが持つものとしては、最強クラスだった。これは、最強のMSとして語りつづける、ガンダムの名を冠する機体ゆえだろうか。

実弾兵器

実弾兵器は、基本装備とも言える頭部バルカン砲に加えて、バックパック部にミサイル・ランチャーを配置、ガンダムの固定武装の実弾兵器としては最大火力となっており、この時期のMSは、いかにして大火力を持たせるかがポイントとなっていたことがわかる。

追加ミサイル・ランチャー



フルアーマー化の際に取り付けられた追加機甲には、肩部和胸部にミサイル・ランチャーを搭載している。バックパックの固定武装に合わせて、弾薬を増えるほどの火力となった。

ミサイル・ランチャー



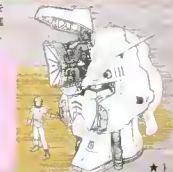
背部にはミサイル・ランチャーの追加機甲があり、胸部のミサイル・ランチャーと合わせて、最大火力を誇る。

ビーム兵器

Zガンダムは、それまでのMSには例を見ないほどの大型ビーム兵器を複数搭載している。これは、バックパック部のものをはじめとした、中型艦艇用に匹敵する出力を持つ、多量のジェネレーターを搭載しているためだ。

ハイ・メガ・キャノン

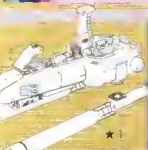
メガ・コンデンサーにシネレーターで作られた電力を蓄積し、エネルギー・CAPに轉ずるミノフスキー粒子の噴流を行えるようになった。これにより誕生した連続型メガ粒子砲で、発射後は機体の振動が停止するため、最後の叩きとして使用される。



★1

ダブル・ビーム・ライフル

Zガンダムの主武装として、コア・トップとGフォートレスの砲身を形成するモジュール、連射型のジェネレーターを内蔵。大型の砲身から放つビームの火力は、両式が運用していたメガ・バズーカ・ランチャーに匹敵する。



★1

ハイパー・ビーム・サーベル

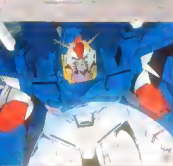
Zガンダムの豊富なジェネレーター出力が移動を可能にした。大型ビーム・サーベル。通常の1.5倍のビーム刃を形成する。バックパックにマウントされており、コア・ベース形態時には、ビーム砲としても機能する。



★1

機体ハイ・メガ・キャノン

フルアーマー化の際に追加されたボディ・アーマーに組み込まれた追加武装。機体の脇から機体の移動を妨げることなく、機体のそれと同程度の出力を持つメガ粒子砲を発射することが可能。この追加装備によって、一度の出撃で最大2種のハイ・メガ・キャノンを持つことができるようになった。



★2

防御装備

Zガンダムの防御装備は、変形・合体機構に合わせ、今までのガンダムのような大型のシールドを1枚装備するのではなく、固定式の小型シールドを両腕に配置する方式を採用。その結果、巨体と相まって独特の機体シルエットを生み出している。

フレキシブル・ウィング・バインダー

コア・トップとGフォートレスの主翼を形成する小型シールド。腰部から可動し、AMBACによる姿勢制御にも有用。



MSZ-010 ZZガンダム

闘いの記録

BATTLE CHRONOLOGY

宇宙世紀
0088年2月22日

29日 ハーマン・カーン、
ジオン再興を宣言

アクシズ、西サイドに独立国を宣言

第1次ネオ・ジオン戦争、勃発

3月3日 アーガン、サイド1、シャングリラ
コロニーにて襲撃作戦に、
アクシズのエンビールと接触

9日 ネオ・コア・ファイター、
アーガマに到着

10日 アーガマ、サイド1を脱出

15日 コア・ベース、アーガマに到着

18日 ZZガンダム、初の本戦

4月12日 エーゴーズ、ZZガンダムを
正式に迎撃

6月6日 ネオ・ジオンの先遣隊、地球に降下

8月1日 ネオ・ジオン本軍、地球降参

29日 ネオ・ジオン、ダカールを占拠

10月9日 ガンダム・チーム、アフリカ
解放戦地の青の部隊と接触

21日 ネオ・ジオン、ダブリンに
コロニー落としを執行

ZZガンダム、サイコ・ガンダム
Mk-IIと交戦

11月3日 戦艦戦艦ネル・アーガマ脱出
ガンダム・チームもネル・アーガマへ

12月29日 ネオ・ジオン内でグレミー脱走

0089年1月上旬 ZZガンダム、フルアーマー化

18日 ZZガンダム、
クイン・マンサと対決
グレミー・トット、戦死

アクシズ、コア3に襲来

17日 ZZガンダム、キュベレイと
一戦打ち
ハーマン・カーン、戦死

エーゴーズ、ネオ・ジオンを制圧
第1次ネオ・ジオン戦争、終結

BATTLE DOCUMENT 01

RECORD

TIME: UC 0088.3.18

PLACE: サイド1コロニー近海近域

ENEMY: ネオ・ジオンMS、ハンマ・ハンマ

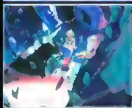
パイロットはマッシュマー・ゼロ

人質にされたイーノを救うべく出撃したジェドのZZガンダムの前に現れた、マッシュマー・ゼロの駆るハンマ・ハンマ。機度も飛躍も激まされてきたマッシュマーの執念はすさまじく、ZZガンダムは顔面を破壊されてしまう。追い込まれたジェドの窮地を救ったのは、ルーのコア・ベース。そしてイーノがラビアンローズから持ってきたコア・トップだった。ジェドが乗り込んだネオ・コア・ファイターを中心に、コア・トップをコア・ベースが合体。その勇姿を脱したZZガンダムは、瞬く間にハンマ・ハンマを一蹴してのけ、驚異的な力をみせつけるのだった。

始動! ZZ



コア・トップ・コア・ベースが駆けつけ、ZZガンダムの全パーツが揃った。



ZZガンダムのピンチに駆けつける新たな力

有機体ビーム砲でオールレンジ攻撃を仕掛けるハンマ・ハンマ。間髪入れず迎撃し出される凄惨な戦いに、ZZガンダムは危機に陥る。



巨大なデブリを切断するZZガンダムのパワー。アーガマのガンダム・チームに、確かな戦力が増加した。

BATTLE DOCUMENT 02

RECORD

TIME: UC 0089.1.18

PLACE: アフリカ近海近域

ENEMY: ネオ・ジオンMS、クイン・マンサ

パイロットはブルツァーとグレミー・トット

ハーマン派とグレミー派に分かれたふたつのネオ・ジオン、そしてエーゴーズの三つ巴の戦いは、最終局面を迎えていた。アクシズをハーマンのいるコロニーにぶつけるべく、グレミーはブルツァーと共にクイン・マンサでアクシズの内部へ。追ってきたガンダムMk-IIとZZガンダムをこどもなげに撃破し、フルアーマーZZと対峙する。絶大な火力を誇るクイン・マンサだったが、パイオセンサの輝きに包まれたフルアーマーZZには、その攻撃が届きなかった! ブルツァーが、ブルの声に導かれるように機体を降り、動きを止めたクイン・マンサを昇ったのは、ZZガンダムのビームだった。

激闘! アクシズ



フルアーマーZZに宿する巨体を持ち、ニュータイプ専用機ならではのファンネルによる攻撃を行う、クイン・マンサ。



最強のニュータイプ専用MSがZZの前に立ち塞がる!!



フルアーマーZZは、ニュータイプ専用機ならではのファンネルによる攻撃を行う。クイン・マンサは、ZZガンダムに激しいダメージを与えている。

GUNDAM SIDESTREAM

第5回 モビルスーツバリエーション2

ガンダムと雑誌記事から発展してきた、MSVの世界。今回は宇宙世紀作品に登場するガンダムのうち、『機動戦士ガンダム 逆襲のシャア』以降のものを紹介。

宇宙世紀MSV、その後の展開

前回は、機動戦士ガンダム から 機動戦士ガンダムZ までのMSVから数々のガンダムを取り上げた。一方ですべての任務をこなせるスーパーメカはないため、MSには戦場に合わせたハリエーションがある。それを描いていくMSVは、ガンブラームの場だけでなく、機体の考案なども詳細となり、単純されたものとなっていた。その顕著な例が 機動戦士ガンダム90 といえるだろう。ひとつのMSを基本として、これを中心に様々な状況に対応できるよう、任務に応じてオプションを付け替えていくこの機体に、ハリエーション展開のひとつの完成形を見ることができる。一方、特殊な任務のためだけに造られた、様々な機体も数出てくる点も、MSVの大きな魅力であり、今後も新たなMSV機体が登場することを楽しみにしたい。

雑誌に掲載され、後にゲームにも登場

●M-MSV

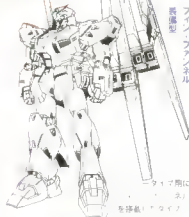
情報公開により判明した機体MS をイラストで紹介した。逆襲のシャアに関連する機体では、vガンダムの機体が登場。雑誌 S Dクラブ（バンダイ刊）で連載された。

RX-94 量産型vガンダム

インコム、
バインクハーク（機体）



第1次オーストラリア戦争の長期化を想定し、地球連邦軍主力MSとして設計された。有線式サーマルエンジン搭載。近距離で戦える。



ファンファンネル

タイプBに
（ア）
を搭載し「タイプ

ガンブラの組み立て 説明書から発展

●CCA-MSV

CCA-MSV 機動戦士ガンダム 逆襲のシャア モビルスーツバリエーション は、機動戦士ガンダム 逆襲のシャア のガンブラリスにおいて、組み立て説明書の中で紹介されたのが発端。後に書籍 機動戦士ガンダム MS大全 アスキー・メディアワークス刊において、デザイナーの明貴美加氏により機体のハリエーションが追加され、拡大していった。ここから生まれた機体のいくつかは漫画やゲームなどでも活躍し、Hi-vガンダムなどはガンブラも発売された。



FA-93HWS

vガンダムヘビーウェイトシステム装備型

スラスターと推進ロケットを内蔵した追加装甲を装備する「トビ」防弾力を上げると同時に、機動性を犠牲にしている。



RX-93

vガンダムタブルフィンファンネルカスタム

スラスターを改造して「トビ」を追加。左右合わせて計12基の「トビ」を搭載可能。vガンダムの完成形。

RX-93-v2 Hi-vガンダム

vガンダムヘビーウェイトシステム装備型。スラスターと推進ロケットを内蔵した追加装甲を装備する「トビ」防弾力を上げると同時に、機動性を犠牲にしている。

アニメ作品の前史を 描いた意欲作

●機動戦士

ガンダム F90

機動戦士ガンダムF91 から派生した企画のひとつで、ガンダムF91誕生以前に開発されていた。ガンダムF90が登場する地帯を描いたのが本作。まず設定が機体性能などに記載される。ガンブラの発売と同時期に漫画で連載された。ストーリーは、F91の時代の3年前、宇宙世紀0120年、火星地球研究所「サナリイ」において開発された試作MSのF90が、テスト中に開発されてしまうところから始まる。F90のテストパイロットになった主人公は、開発されたF90を奪還するために、火星設立シン軍を率える。



F90
ガンダム F90

サナリイの「型MS開発計画」フェーズ2計画で誕生した機体。火星主力MSの候補として試験開発が製造され、第13実験団に納入。アサルト専用機。



F90A
ガンダムF90
アサルトタイプ

F90のハリエーション。機体能力を向上させる。火星地球研究所を攻撃する長距離機体任務を目的としたオプション装備型。



F90D
ガンダムF90
テストロケットタイプ

「距離の制限、近距離での多数の敵に対する攻撃を目的としない。メカ・カド、クカ、ヤロ、ト等から、大量の兵器を搭載している。



F90H
ガンダムF90
ホバータイプ

地上戦用の強化オプションを装着して、高速移動を可能にする。高い走行能力と、電磁誘起して威力を発揮する長距離砲撃装置を搭載する。

小型MSという新コンセプトの登場

●機動戦士ガンダムF91

機動戦士ガンダムF91の映画公開当時、雑誌「ガンダムマガジン」（講談社刊）などの誌上で、アニメ本編では未登場だったF91のバリエーションが紹介された。



F90M
ガンダムF90
マリンタイプ

F90に水中航行強化パーツを装着したタイプ。水の抵抗を低減し、最大航行速度400m/分、最高速度90km/h、従来の水中航行用MSを大きく上回る性能を獲得した。



F90S
ガンダムF90
サボートタイプ

アサルトタイプ。機体とともに出撃し、作戦に即した変換任務を担当することを目的に開発された。増設した足と機体とを連結し、ムーンやシールド、キャノンなどの砲撃装備を充実させている。



F90P
ガンダムF90
フランhtyタイプ

大気圏突入のための機体前面に、ベークライト（透明樹脂）製の「フレイムシールド」形状の装甲を装着したタイプ。大気力による高速移動により、対空や宇宙戦闘機としての運用も可能。



F91
ガンダムF91
バトルキャノンカスタム型

ウェーブ、装甲の間に隠れた、機体と一体化した対空用の4連装のミサイルを装備し、高火力を発揮する。



F91
ガンダムF91
ズインウェスターカスタム型

（F91）の機体と一体化した4連装のミサイルを装備し、高火力を発揮する。

F91とVガンダムの架け橋

●機動戦士ガンダム シルエットフォーミュラ91

F91に関連するMSVのひとつで、カンブラ「機動戦士ガンダムシルエットフォーミュラ91 IN U.C.0123」シリーズとして発売。そして、この時代のA.E.社のMS開発計画や、F91以降のサナリイの動向が裏面などで描かれた。



F90V
ガンダムF90
ウェスタータイプ

サナリイが開発した、ジェネレーターから直接エネルギー供給を受ける高出力機。兵器、ウェスターを搭載している。これを駆動する高出力ジェネレーターを装備し、より強力な機体を使用する。とされている。



OMS-90R
ガンダムF90
火星独立シオンカスタム型

火星に本拠を置く火星独立部隊、重戦車強化したF90の2号機を改造したもの。カラーリング変更だけでなく、機体の各部に、独自の、重戦車のオプション、兵器を装着できる仕様にするなど、多くの手が入れられた。



F90 II
ガンダムF90 II

火星独立部隊、オムズウェルカ軍団時に大改良した。F90の2号機を改造した実験機。新型「サイロ」の採用により性能が向上している。アサルトタイプ、シオン、クオース、はF90のものかその派生型を使用できる。



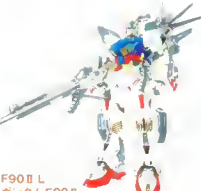
RXF-91
シルエット・ガンダム

サナリイが対抗してA.E.社が開発したMS。非合法に入手したF91など、サナリイのデータも活用されている。



RXF-91A
シルエット・ガンダム改

戦闘で大破したF91を、サナリイが新型タイプ、機体の修復を施す。とされている。修理、改造が行われた。



F90 II L
ガンダムF90 II
ロングレンタイプ

長距離からの狙撃と攻撃力強化を狙ったタイプ。肩部分に「サイロ」を持つ。超高出力機。ムーンと太陽系、高速移動の両方を発射できるロング・ライフルを主武器とする。



F90 II
ガンダムF90 II
インターセプトタイプ

部隊に連携攻撃を支援するタイプ。機体と独立して飛行可能な「マスター」内蔵の「フレイム・シールド」を装備した。兵器、出撃用の機体、専用兵器、インターセプターは、フレイム・シールドの機体と一体化し、さらに低コスト、ムーン・シールドにもなる。



RX-99
ネオ・ガンダム

ネオ・サイロ、兵器を搭載。F91を回る性能を実現。A.E.社に属する。ウツの、アサルト開発。



F90 III Y
クラスター・ガンダム

F90の3号機。サイロ、兵器を装備する。サナリイが、サナリイが開発された。

俺たちが来たからには、サッキーの好きにはさせないぞ！

ガンダム狂四郎

メカデザイン&イラスト

やまと虹一

原案 クラフト団

作品ナンバー5 **ガンダム・ウォリアーズ**



ピンク・ウォリア
by みどり

グリーン・ウォリア
by キー坊 (木田寛一)

イエロー・ウォリア
by 山根アキラ

ブルー・ウォリア
by 丸山 健

レッド・ウォリア
by 京田四郎

ガンダム・ウォリアーズ

作 京田四郎・丸山 健 山根アキラ・みどり 木田寛一

30年前、京田四郎の手によって生まれた「レット・ウォリア」を、かつての仲間たちが独自に改良を加え、新たなガンダム軍団「ガンダム・ウォリアーズ」として復活させた！ レットとブルーはガンダム、イエローはジム、グリーンはカンタンク、ピンクはカンキャンンをモチーフにしたこの機は、それぞれの機体性能を生かして補完しあい、遠近あらゆる方向からの攻撃を繰り出し敵を粉砕するプラモシミュレーション史上、最強のガンダム軍団なのだ

「一人一人の力は小さくても、5人の力を合わせれば、その力は無限大だ！」狂四郎のピンチに、心強い仲間たちが帰ってきた。さあ、5つのプラモ魂を1つに合わせ、サッキー軍団をやっつけろ！

の改善に加え、ハイ・イ・キャ・の活用化に問題が叫び、開発は4層をきめた。⁰¹ MSZ-010が完成したのは、開発開始から約半年が経過した。U.C.0088年3月のことだった。すでにゲリフス戦役は終結していたが、エウゴは、アクセスを本拠とするハイ・イ・エム軍の残党(同年7月、ネオ・ジオの1017を打ち壊す)との戦役を繰り返していた。第1次ネオ・ジオ戦争と呼ばれるこの戦争にMSZ-010は投入され、絶大な戦果を挙げた。⁰²

MSZ-010は0080年代後半における、最強のMSの1機であることは間違いない。だが、その反面、この機体は扱いにくい存在だった。

最速でありながら、MSZ-010の移動時間はあまりにも知った。全兵器を使用した最大機動時間は最初にして30分にすぎなかったといわれ、最強の兵器であるハイ・メガ・キャノンを使用した場合、パワータンクから活動不能に陥るという有り様だった。また、変形合体機構を採用したことで、構造が複雑で整備に手間のかかるものとなってしまった。當時、この機体を移動可能とするには、通常の数倍の労力が必要だったとまで言われていた。

複数のコンソートをひとつの機体に詰めこげることの限界から、MSZ-010の完成によって減らしたのだ。

軍縮時代の傑作機

第1次ネオ・ジオ戦争終結後、地球圏の争いが鎮静化に向かうと考えた地球連邦軍本部は、ティターンズ時代から肥人化傾向の続く宇宙兵器の削減を試みた。MSZ-006やMSZ-010のような機体は汎用性ではあったが、同時に莫大な開発費を必要とした。こうした機体の開発は、軍縮の時代においてますます中止すべきものだった。⁰⁴

ネオ・ジオの残存勢力を脅威と見做し、地球圏の治安維持のために新創の外部部隊として、ロント・ヘル・隊が設立されているが、こうした動きは軍の主流ではなかった。

RX-93 ヴァンダムは、軍縮の道徳的、ロント・

ヘル・隊のエース・イロ・アムロ・レイの専用機として開発に着手された。一年戦争時 RX-78のバレットとして有名な機体だアムロのニュータイプとしての能力を最大限に引き出すべく、RX-93は当初より完全なニュータイプ専用機として計画されていた。それまでガンダム系の機体で行われてきた、マクゼット・コーディネイトなどによる機體性能の向上や、ハイオセンサーによる推進系のレスポンスの改善といった対応だけでなく、ニュータイプの感情波によって遠隔操作可能なオールレンジ兵器(ファンネル)を装備することが前提だった。

だが、本機の開発に軍本部は難色を示した。一人のエース・バレットのために専用機を開発するという行為そのものが、この時期の連邦軍にとってみれば、予備の無駄遣いだった。開発陣は本機をワンオフの機体ではあっても、汎用化が可能なように配慮した設計案を提出。ようやく正式な許可を得た。⁰⁵

本機の大質的な開発は0082年12月に着手され、3ヵ月という短期間で完成している。これには、開発陣が本機を汎用化可能な機体として設計したという背景があった。RX-93には、サイコム関連の装備以外は、ほぼ連邦軍で標準的に採用されている規格品が使用されている(規格品以外であっても、調達の手配などの手間が省かれていた)という。

開発途中の0083年2月、第2次ネオ・ジオ戦争が勃発した。アムロは19歳で1017に乗り出した。0093年3月6日、アムロは引退された。

RX-93は完全なニュータイプ専用機という点を除けば、それまでZプロダクトで開発されてきたどの機体よりもベーシックな設計であった。Gワークをも含めたシステムとしてのRX-78を志向したMSZ-010とは対照に、シンプルな形で連邦軍MSの原点に立ち返ろうと試みたのもいえるだろう。本機では変形合体機構はもちろんのこと、コア・ブロック・システムさえ施されていない。

こうした方針も機体開発予算の削減以外に、基礎設計に力を入れたアムロが関わった点が大き

く、設計にあたっては少年時より機械いじりを行ってきた手からRX-78の整備をも行った経験も役立ったといわれている。

ロント・ヘル・隊においてRGZ-91「ガズィ」を搭乗したアムロは、Z系の機体は非常にデリケートなものだと感じていた。彼は設計にあたって、Z系を引き継ぐという形ではなく、歴代ガンダムタイプの性能の平均値を割り出し(単純なスペックではなく、同時期の他のMSとの相対的な比較を考慮)、そこに開発時期と現時点での技術的進捗を考慮し、指標となる性能を決定した。もっとも、完成した機体はアムロの専用機であり、他のバレットには扱いづらいものだったといわれるから、皮肉である。

また、設計においてアムロは信頼性と耐久性を重視した。戦争が長期化する可能性は否定されず、それに備えるなら、整備は容易ななければならない。規格品の使用は単に開発予算獲得の方便ではなく、現実の運用を想定した提案でもあった。

本機の開発史では、曲線的な技術となったのは、サイコ・フレームと呼ばれる技術の採用によるところが大きい。サイコ・フレームはネオ・ジオにおいて開発、完成された技術である。サイコム機の性能を持つコンピュータ・チップを金属製のサイズで素材内へ入れ込む。そうすることで、素材そのものが処理回路を行う、分散型コンピュータを構成しようとするものだ。

この技術はAE社が入手したのは、ネオ・ジオのMSの開発、製造を請け負ったことによる。第1次ネオ・ジオ戦争後、小惑星基地アクスが連邦軍の管理下に置かれたため、ネオ・ジオは中東ともいうべき海外に「生産拠点を失ってしまった。大きく減退した生産力を補うため、ネオ・ジオはAE社へ接触。秘密裏にMS開発への協力と、19歳を依頼した。デラース対峙時の機体漏洩事件など、AE社は事業部ごとに独立採算制を採用するなど、機体漏洩を防ぎよう方策を取っていた。このため、特定の部署が独走することも可能な状態となっていた。本機は当初、大規模したボディユニット従来型

⁰¹ 最初に完成した試作機は2機の可変前置・航空機より機体構成するというものだったが、ジェネレーター駆出力の不足が機体運動と動力系を見直し、機体の構成を2機から3機(コックピット・コア・ブレイク・ファイター)へと増やした。また、最初は機体試製機としてMSZ-009プロトタイプZが開発されたといわれている。

⁰² 同時期に開発が進んだMSA-0011Sガンダムは19歳で戦線に完成、実戦へ投入された。

れた。開発コード名は「ガンダム」。これは機体にサイコム兵器の「サイコム・システム」を装備した第4世代MSであり、無人MS標準の一種として、バレットとは別に、試験的にメイン・コンピュータ・システムは「AUC」を搭載した「AUC」回収のため、本機にはコア・ブロック・システムが採用され、分離合体機構を有する。⁰³ MSZ-010は変形合体機構を持つ機体として開発が進められていたが、運用方針によっては仕様変更できるよう、設計段階で考慮されてい

た。変形合体機構を採用したことでMSZ-010はコア・ブロックが露出し、機体全体にも機体部分が増える形となった。そこで、RX-78同様、F/A化によってこの弱点を補うことが考えられた。MS形態時の機体試験と同時に、F/A化時の機体性能試験も行うことが決定され、F/A ZZが製作された。MSZ-010のF/A化は実戦投入から10ヵ月後、第1次ネオ・ジオ戦争末期に行われた。このとき、MSZ-010本体の故障も

なされ、型式番号はMSZ-010Sへと変更された。強化型ZZガンダムと呼ばれる。この改修は空間認識への特化を主題とし、バックパックをより大型のものへと換装。ジェネレーターの高出力化と機動性向上を企図するものであった。⁰⁴ MSZ-010はMSZ-013 量産型ZZガンダムとして量産化が計画されたという。変形機構を廃し、兵器を簡略化したが、予定別のコストダウンを実現せず。試作4機が生産されるに留まったといわれている。

MSZ-009
プロトタイプ
ZZガンダム



MSZ-013
量産型ZZ
ガンダム



FA-010A
FAZZ

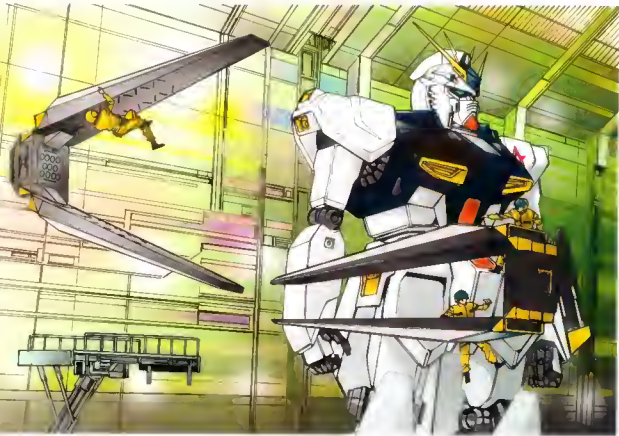


FA-010S
フルアーマー
ZZガンダム



MSA-0011
Sガンダム





力、ターボエンジンの
タイプ専用機であるRX 93は、
實用の、タイプ兵器としてファ
ネルを装備した
「ファネルは無敵サイツミー
鉄鋼で製されるオールレンジ兵器であ
る多くの、兵器が、編造したメカ
粒子を撃ち出す追加弾速を飽和、敵軍、部
と持つ、対し、ファネルは
は開発型の加速器を採用している、ファ
ネルは3つのプロセッサから構成
され、この字型の構造で上下の「プロ
セッサ」によってメカ粒子の加速を
行う

この時期のオールレンジ兵器はMSの
適用に支障を及ぼさないよう、小型化され
る傾向があった。しかし、RX 93はこの
流れに逆行し、大型化させたオールレ
ン兵器を機体の防御に使用するという発
想の転換を行った

開発型のメカ粒子加速器を採用したこ
とで、ファネルは非常に高価な兵器
、フィールドで発生させることが可能と
なった。そこでこれをフィールドで
発生させるビーム・リニアと機械
させたのだ

しかも、複数のファネル・ビームを
連射させることでバリアを構築するこ
ともできた。例えは、4基のファ
ネルを使用し、機体周囲に正面防御
を構成した場合、全方位に、バリア
を構築できる

ファネル・ビームはまさに、次期一
体のニュータイプ専用兵器だった

のサイコ・フレームを搭載する予定で開発を進められた
しかし、サイコ・フレーム技術の入手から、A.E.社
の開発スタッフ、オクトバー・サランはこれをコウ
ビット・フレームとして成形、パイロットから等距離
に配することにした。結果、3キロの半径に成した
遠隔能力も人知に向上することになった。サイコ
フレームは駆動制御部分にも配され、ハイオセン
サー以上の機体反応性の発展に貢献した。ムハバ
ル・フレームのフル・サイコ・フレーム比は1986
年に完成したRX 0ユニコングラムにおいて大
展されている

新規技術の投入で、RX 53は甲殻鋼製のニュー
タイプ専用機として、高い性能を示すこととなつた

肥大化する企業と機体

0090年代は事実上、MS市場がA.E.社の独占
状態となった時代である

0080年代後半のティターンズの崩壊により、連
邦軍はMSの自軍での調達という方針を変更して
いた。0090年前後の車輪ムートも、第2次ネオ
ン戦争の勃発により水を浴びせられた形となつた。
ネオ・ジオンの戦力勢力は地球圏より徐々に縮
小され、人規模な戦況こそ減っていたが、テロや
紛争は絶えなかった

こうした情勢を背景に、A.E.社は積極的にMSの
開発、生産を行った。0080年代初頭から、会社メ
ラウン・ビュウ・カー・ハイの相し進めた政策が、
この頃に明らかに形を大々結んだのだ

「ナナ、の平和」となっていく時代である
「ナナ」は、軍事産業において最も利益が出るの
は、こうした結核的な軍事の緊急状態である。他
の商人と師範されるA.E.社だが、人規模な戦況
は皆どころでなくなつた。過度な戦争を伴う平
和こそが、緊急的な成長をもたらしてくれるのだ

とはいえ、MS開発がA.E.社へ集約されてい
たことの影響も現れてきた。新規MSが高性能を
求められるのは当然であったが、これがA.E.社製品
においては機体の大型化に繋がっていた

機体の大型化は同時に、運用のための搬送や施設
の大規模化をも意味した。例えは、RX 78では全高
18メートル程度だったものが、MS/106では19.85
メートル、MSZ 010では21.1メートルにも達して
いった。こうした大型化を伴う高性能化が主力MSの
普及すれば、連邦軍はほとんどの艦艇、施設を改修、
壊滅、新造せねばならなくなる

新発するテロや紛争へ対応すべく、連邦軍はMS
の新機開発を積極的に推進していたが、その力
で、年次総額する自軍の支出は倍々増え、もた
ない。連邦政府には軍事支出を抑え、経済的なス
ペース・コロニーの再建にこれを充てたいという財政
的な要請もあった。しかもMSの大型化は、今後
紛争の事下での増人を招く可能性がある。こうした
危惧が明確に表明されたのは、1102年だった

10年以上にわたって運用されているRGM 89
ガンガンに代わる1万馬力MSとして、連邦軍は新規機
体の開発を依頼。連邦議会軍事開発委員会にお
いて、海軍戦略研究所、通称サナリイ(S.N.R.I.)

Strategic Naval Research Institute)がMSの小型
化を提言した³⁶

MSの小型化そのものは、サナリイの提言以前より
各方面で考えられていた。単に運用面からの効
率化だけではなく、従来機と同等の性能を持つ、
しかも、ターボを搭載した場合、パフォーマンス
（出力/重量比）の高さから、小型のMSのほうが優れた
機動性を発揮できるのだ

軍事開発委員会はサナリイの提言を容れ、第1
万馬力MSの小型化を決定。1105年、A.E.社へ開
発を委託する。しかし、A.E.社側は開発に消極的だ
った。彼らの興味は第4世代に続く第5世代MSの開
発にあつたわけである³⁷

結局、A.E.社は小型MS RGM 109「シーレン」を
完成させるまで、受け付けらるもの歳月を要した
しかも、この機体にはA.E.社の小型化への理解が満
足に現れていた。RGM 109は旧型RGM 89「ユニ
コングラム」をスケールダウンさせたにすぎないが、
RGM 89以上の性能をそそいだもの、期待された性能
ではなく、小型MSの真価を示す機体ではなかった

実際のところ、MSの大型化による艦艇や基地を
はしめる需要は増え、A.E.社の求めるもの
のため、そうした意向がRGM 109を、おそるおそる
小型化に留めたのだ

A.E.社の判断は、ある程度MSの主流は従来の
サイズであり、小型MSがこれに代わることはない
と考えた点にあった。つまり、A.E.社における小型
MSは、軽MSだった

サナリイ側は完成したRGM 109を「何となく」に

‘05 RX-93の最終計画は本稿の完成後、RX-94量産型やカガムとして構想された。RX-94はロケット・ヘルム、等身サイズ、ハイロケット機として考えられ、サコウ・フレームを装備し、5車体のフィン・ファンネルを装備するコアタイプ専用機とインコムは従来のハイク・ハクを持つコアタイプ専用機の2つの仕様が構想されていた。少戦の生産を予定されていたが、この機体も従来のカガムタイプの数より多く造られていたという

RX-94 量産型Vガンダム



インコム・バックパック装備型

のみで機体は、ト・ノ・陣の戦力増強はRX-95リゼルを中核に行われた。この一方で、第2次オースティン戦争の高度化に備え、RX-93の機能強化を図るべく、F.A化の計画も存在していた。この計画が実現された仕様はFA-93HWSの型式で呼ばれた。ヘビィ・ウェポン・システム装備型と称されたF.A化はRX-93の設計思想とは相反するものだったが、計画段階で予想される機体の性能は良好

フィン・ファンネル装備型



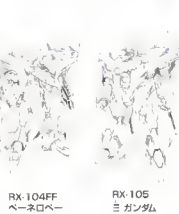
FA-93HWS Vガンダム
ヘビィ・ウェポン・システム装備型

だった。これはRX-93が世代のカガムタイプMSをベースとして設計されていたためと見られている。‘06 サナリイはもともほとんどサイド1建設を行なったところもある企業であり、これを軍が買収し、研究開発とした。このため、コロニー公団との関係も、量産用機動機体の設計を促されたものの本格的MS開発には本格的だった。しかし、地味な設備が落ちつきを見せたことから、MS開発の

より競争に巻き込まれる可能性が減少したと考え、方針を変更したといわれる。サナリイが研究開発という名目でかなり本業に支度を蓄くこと、一機体で企業のように配られるのはこうした風潮にもなるらしい。‘07 小型MSの開発競争に先だてた。A社にはミクスチャー・クラブという編組を擁し、非変形での大気圏内巡航航行を実現する第5世代MS、RX-104FFヘーネーロベ、RX-105ミガンダムを完成しては、RX-104FFの原型をカガムタイプMS、オデュッセウス・ゼンダムとする図もあった。

第5世代MSは大気圏内でのMSの運用を一定させる機体と考えられたが、従来の高コストな機体そのものの蓄いり大化のため、普及しなかった。

‘08 軽量化目標はグラム単位であり、グッゲンハイカーはスタフとの間で剛性まで行っていたという確証も残されている。目標が達成されることにグッゲンハイカーは10グラムでコンパクトに、1キロに重量をスタフへふるまい、反対にこの目標が達成できない場合にはスタフに罰金を課せられた。グッゲンハイカーの設定した目標値は当初、無理のあるものと捉えられていた。一方、グッゲンハイカーが持ち続けるには、スタフからは「機体よりも荷分の体重を削しろ」との皮肉さえ上ったという。



RX-104FF
ヘーネーロベ

RX-105
ミガンダム

で、不満を顕微鏡にしたという

しかし、連邦軍はこの「おざなりな」機体の生産を決定する。次世代機となる本格的な小型MSの計画までの繋ぎとして位置づけられた。ただし、ATMS（Advance Tactical Mobile Suit）の略称で呼ばれた。次期主力MS開発計画からA社を外すことは、中期では既定の方針となっていた。小型MSの開発に前向きだったというだけではなく、MSの開発、生産からA社に託されている状況を危惧する声が高まっていたのだ。

‘09戦力強化、連邦軍はティターンズに主導された。時間を除き、民間に開発を委託することMS開発予算の削減を図った。しかし、A社がMS開発を拒んだことで、削減が思うように進まず、A社以外にMSを造れる者がいないという事態は、発注側がA社の要求に対して譲歩し続ける1次削減を生んでしまった。

サナリイはMSの小型化を提言した軍の所属機関、サナリイが中心となって行うこととなった。

新規開発されたMSの開発コードはF（フォーミュラ）だった。

覇者の驕り

Fシリーズの開発は軍機密とされていたが、すでにA社が知ることもあった。こうした動きをA社が察して見過ごすはずもない。A社はすでに強引にATMSへ参入、次期主力MSはサナリイとA社とのコンペションによって決定されることとなった。

サナリイは技術開発幹部、ジョブ・ジョブ指揮のもと、F90の開発計画を推進した。MSの小型化というF90の開発の視点をいかにしながらも、サナリイにはMS開発の対価の蓄積は増え続けた。このため、F90の開発においてジョブ・ジョブはA社のスタッフを招聘（事実上の引き抜いた）のは間違いでない、

本気で支社の協力も求めたという

計画の現場を取りまとめるチーフデザイナーにはアルマイア・グッゲンハイカー博士が選ばれた。グッゲンハイカーは「次期主力MS開発にあたって」MSの原点から立ち返ることを提言した。こうした提言は従来の開発においてもしばしばなされたが、グッゲンハイカーの設計思想はMS本来が持つ汎用性に着目したものであった。

MSの大型化、複雑化の傾向は、複数の機能をひとつの機体へ盛り込むものとした結果であった。しかし、そもそもMSは最初に開発された段階においては「汎用性」であったはずだ。グッゲンハイカーはこうした考えのもと、MSを素体として捉え、高機能性をユニットの追加によって実現しようとした。

この構想はジョブ・ジョブに賛成するところだった。ジョブ・ジョブは「年戦争時、RX-78を運用した」ホウ・バース 隊の整備員だった。この30年近いMSの発達を、身近に体験してきた人間でもあった。ジョブ・ジョブにとって、グッゲンハイカーの「拡張性」は自らの原体験の再確認といってもよかった。

こうして開発が始まったF90は、早い段階からカガムタイプのMSとして計画されていたという。連邦軍MSの原点は「ガンダム」なのだから、ここで開発されるべき次期主力MSもまた、ガンダムの顔を持つべきだった。ジョブ・ジョブはもちろん、グッゲンハイカーもまた、そのように考えたのだろう。

素体としてのMSに拘ったグッゲンハイカーは、小型、軽量化こそが高機動性に繋がるとも考えていた。そこで、F90では自衛用の頭部56カ所以外の内装機器を廃した⁶⁸が、設計段階で徹底的な構造的見直しを行った⁶⁹。

ヤマトへの開発したマイクロ・ナノ技術が惜みされたことで、F90の軽量化は大幅な進捗を見せた。この技術はミクスチャー・クラブが当初に夢

ぶこそを利用し、格子状の形でも金属結晶を成長させるというものであり、従来のガンダム系合金以上の強度を実現することができた。

結果、完成したF90のムーバブル・フレームや装甲の薄肉化は、従来機に同等の性能を持たせようとした場合と比べ、30%もの減少を達成する

シェネレーターは推進システムを2基、MS用として活用した。もとより軌道制御レースに使用されていたため、このジェネレーターは小型で高出力なものの、耐久性に問題があった。そこでF90への搭載にあたっては、出力を若干下げる形で調整が行われた。それでも、従来のMS用の標準的なシェネレーターに比べ、1.5倍もの出力を誇ったというから、尋常ではなかった。

素体MSへ高機能を加えるためのユニットは、ミッション・パック形式として完成した。これまでフルアーマー・システムや、Gディフェンサーカガム機能付加する装備として存在していたが、これらは後付けで設計されたものばかりだった。この点に対してグッゲンハイカーはMSの使用目的に応じ、最初から各オプションの規格を統一した形で追加ユニットを設計した。ミッション・パックと呼ばれたこの追加ユニットは、全部で26種類が構想されていたといわれる。

こうして完成したF90は、機体までの軽量化と、小回りで知られた人出力のジェネレーターを搭載したこと、パワーウェイトレシオ（出力/体重比）が従来機に比べ、大幅に向上していた。従来機とは次元が違う。とまでいわれた高機動性が実現されたのだ。

次期主力MS選定のためのコンペションは、0111年10月に付された。このコンペションが今後のMSを大きく変えるものになるとは、競合するA社開発関係は考えてもいなかった。

そこに覇者の驕りがあった。

GUNPLA-ガンブラ30年の歩み

Revelations



第5回

新世代MGが見せた ガンブラの新たな進化

「95年のMG発売から5年が経過した00年 MGにバージョンアップという新たな波が起る。かつてのガンブラにはなかった、時代に合わせた商品の進化は、MGのさらなる活性化につながっていった。」
文：石井 誠

MGのバージョンアップ

95年のリリース開始以来、第2次ガンブラブームともいえる盛り上がりを見せながらMGシリーズ。その時々のガンブラブームのトレンドや新しい技術を取り入れてリリースを重ね、PG、HG、UCという後継のブランドが生まれても、MGはガンブラの「主軸的な存在であり続け」といえる。シリーズが長きにわたり展開するなかで、リリース開始時のものと最新の商品とでは同じプラントのなかでも微妙な差異が生じてきた「究極のガンブラを造る」という指針のもと、兵器としての解像度やディテールを組み込んで商品化されたRX-78-2 ガンダム。発売当初、人々を驚かせた。MGに次ぎに採用されていた、いざさか趣向の異なるものとなっていた。また、最新のモデルと比べてしまうと、関節部の可動範囲も狭いものであった。

そこで、プラントのスタートから5年を経た00年、新たな試みが行われた。それは、既存のモデルを進化させるというものだった。PGで採用したシステムインジェクション技術を採用した

内部フレームをRX-78-2 ガンダムに内蔵し、さらに関節部を除くほとんどの外装を、最新MGモデル群のラインに合わせてリファインしたものに変更したのだ。こうして初のプラント内バージョンアップが実現し、MGガンダムVer.1.5が誕生した。

バージョンアップの影響

MGガンダムVer.1.5は、高い評価とともにガンブラユーザーに受け入れられ、02年には、メカデザイナーのカトキハジメ氏がデザインとプロデュースを担当した、プラント内プラント「テサイヤースモデル」が誕生。カトキ版ガンダムとも呼ぶべき、ガンダムVer.1.5がリリースされた。

さらに05年には、フレームーションと旧ゲームソフト「機動戦士ガンダム 年戦争」の、ゲーム中に登場する3Dポリゴンモデルを再現して立体化した、「Ver. OYW」と呼ばれる、ガンダムVer. ONE YEAR WAR 0079もリリース。これは新規型を製作して発売された。

このように、同一プラント内に同一機種のガンダムが、4種の製品としてラインナップされるといった状況は、ガンダムのファン層を多様化していることを示すとともに、それに応えようとしたメーカーの姿勢の現れでもあった。

次のステップ、Ver.2.0

MGガンダムの「リンクポイント」のひとつとなったアイテムに「機動戦士ガンダムSEED」から初MGキット化された、エールストライクガンダムの存在が挙げられる。ガンダムSEEDのMGは劇中において、ロボットというよりは人間に近いアクションをしていたため、キット化にあたっては、ジョイント幅を広げる設計と、ポリキャップを使わない関節可動技術が盛り込まれた。こうした試みは、当然ながら後のアイテムに大きな影響を与えている（先述のガンダムVer. OYWも、この仕様を採用したキットである）。

こうした仕様を持つ製品の発売は、MG内での本格的なバージョンアップの気運を高めていった。そして、劇場版「機動戦士ガンダム」の公開に合わせ、MG初のリアバージョンアップモデルとして、ガンダムMK II Ver.2.0、続いてガンダムVer.2.0が発売された。

洗練された美しい可動機構や変形機構などの登場は、設計技術の向上と技術革新。そして製品を進化させ続けようとするメーカーの意図により実現したものであり、MGの、そしてガンブラの新たなステップの到来を予感させるものだった。

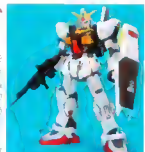


**RX-78-2
ガンダム
Ver.1.5**
00年6月発売
記念すべきMG初のバージョンアップモデル。システムインジェクションを採用した本完成形の関節フレームと新規設計に近い外装パーツを持つ

**GAT-X105
エールストライク
ガンダム**
03年10月発売
ABS樹脂を主原料とする、機密化された可動機構を持つ内部フレームを内蔵。MGの関節構造の新たな方向性を示した



**RX-178 ガンダム
MK-II Ver.2.0**
05年10月発売
初めてVer.2.0の名を冠し、MGの新時代への移行を示した製品。ABSデザインの内蔵フレームにより可動範囲の拡大を図り、ジョイントを新たにデザインされた、完全新規キットとなっている



**RX-78-2 ガンダム
Ver.Ka**
02年12月発売
カトキハジメ氏の手によって描かれたシム改を基に、新たにデザインされたガンダム。長期にわたって支持されることになった。デザイナーモデルの第1号製品



**RX-78-2 ガンダム
Ver. ONE YEAR WAR 0079**
05年3月発売
エールストライクガンダムの関節機構をもとに、さらなる可動範囲の拡大を図られたキット。成形色はゲーム中の設定に合わせて、色度を再現している。ガンダムVer.2.0と呼ばれるまで、最も変えないほどの進化を遂げた



**MSZ-006
Zガンダム
Ver.2.0**
05年12月発売
新開発のフレーム技術を用いた変形機構を先導させている。また、変形とプロポーションの維持を両立しながらも、可動部分の安定性も確保している

GUNDAM MS HISTORICA

全18巻予定 各巻定価690円(税別) A4判24頁
角切 中込し オイルカラー36ページ



特集

Gを超え、先へと進むもの —進化系ガンダム—

次号 Vol.5 (元) 10月23日発売

ガンダムでありながらガンダムを超える存在たるべく、進化の道を行く……。めざすは、究極のガンダム!!
紹介機種 ▶ RX-0 ユニコーンガンダム F91 ガンダム F91 LM312V04 Vガンダム

大好評発売中!

Vol.1 白の伝説 —初代ガンダム—



紹介機種 RX-78-2 ガンダム

Vol.2 Gを継ぐもの —ガンダム直系機—



紹介機種 RX-78-2 ガンダム
RX-178 ガンダム Mk II
RX-78000 機動武闘会用ガンダム
RX-78000 E-6 ガンダム E-6

Vol.3 高みへの飛翔 —真を討たガンダム—



紹介機種 MSZ-006 Zガンダム
LM314V21 V2ガンダム

Vol.4 驚愕の鬼神 —ニュータイプ専用機—



紹介機種 RX-78NT-1 アレックス
MRX-009 サイコガンダム
MRX-010 サイコガンダム Mk-II
RX-93 Vガンダム

| | | |
|----------|--------------------------------|-----|
| Contents | 宇宙を震わせる脅威 —有 戦争後の遺産とガンダム— | 162 |
| | 新たな敵機たるガンダム | 166 |
| | Weapons of RX-78000 | 169 |
| | 林の心を解る戦術機 | 171 |
| | Useful Information of RX-78000 | 172 |
| | Weapons of RX-78000 | 173 |
| | MSとMAが融合したガンダム | 174 |
| | Useful Information of RX-78000 | 175 |
| | Weapons of RX-78000 | 176 |
| | 究極の多機能化をめざしたガンダム | 177 |
| | Weapons of MSZ-006 | 178 |
| | MSZ-006 Zeta Gundam | 179 |
| | GUNDAM SIDESTREAM | 180 |
| | ガンダム詳細部 やまもと | 181 |
| | ガンダムの時代 哲野有樹 | 182 |
| | ガンダムの時代 哲野有樹 | 183 |
| | GUNDAM REVELATIONS カンパニオンの物語 | 184 |
| | GUNDAM FRONT LINE 20th | 185 |
| | ガンダムと人とのこころ 三浦大輔 | 186 |
| | ガンダムと人とのこころ 三浦大輔 | 187 |

■Editor 三浦大輔 ■Editor 三浦大輔 ■Editor 三浦大輔
■Editor 三浦大輔 ■Editor 三浦大輔 ■Editor 三浦大輔
■Editor 三浦大輔 ■Editor 三浦大輔 ■Editor 三浦大輔
■Editor 三浦大輔 ■Editor 三浦大輔 ■Editor 三浦大輔

最新情報はガンダムオフィシャルズ公式 Web まで
<http://www.gundamofficials.com/>

Official File Magazine ガンダム MS ヒストリカ Vol.5

発行 人竹永介
編集 永田浩一郎
発行所 株式会社 講談社
〒112-8614 東京都文京区
稲荷 4-1-1
電話 03-5611-0111
FAX 03-5611-0112
営業部 03-5611-0113

Printed in Japan
印刷 株式会社 印刷局
発行 株式会社 講談社
〒112-8614 東京都文京区
稲荷 4-1-1
電話 03-5611-0111
FAX 03-5611-0112
営業部 03-5611-0113

ISBN978-4-06-370083-1

GUNPLA
30th
Anniversary

RG
EXHIBITION 2014-2015

RX-78-2 GUNDAM
S.F.R. TOTYPE QLO E COMMA



さらなる進化を求めて—
ガンプラ新ブランド発売

REAL GRADE 1/144 scale
RX-78-2 ガンダム
価格 メーカー希望小売価格 ¥2,625 (税別)

ガンプラ EXPO 開催! 入場無料

JAPAN tour 限定アイテム多数販売!



HGUC セークガンダム クリアカラーバージョン
MG 量産型ザク Ver.2.0 クリアカラーバージョン

© 鋼魂・サンライズ ※詳細価格で販売します。詳しくはガンプラ30周年公式サイトで御覧いただけます。※イベント内容は、予告なく変更・中止になる場合がございます。予めご了承ください。
※商品は写真と多少異なる場合があります。※価格はメーカー希望小売価格(税別)です。
※写真の1/100品は販売数量が限ります。※写真はイメージです。

限定品など、開催詳細はこちら!

- 1st 9/10~ 仙台**
日程: 2010年9月10日(金)~26日(日)
会場: 仙台パルコ4F「スペース7」
- 2nd 10/1~ 札幌**
日程: 2010年10月1日(金)~17日(日)
会場: 札幌パルコ本館7F「スペース7」
- 3rd 11/18~ 名古屋**
日程: 2010年11月18日(木)~12月6日(月)
会場: 名古屋パルコ 西館6F「パルコギャラリー」
AND GO ON!



ガンプラ30周年公式サイト
<http://www.gunpla30th.net/>



株式会社バンダイ ホビー事業部
バンダイ総機相談センター
電話 054-208-7520
受付10~16時(祝日除く月~金)



OFFICIAL FILE MAGAZINE
GUNDAM
MS HISTORICA 5

雑誌 60252-59
ISBN978-4-06-370083-1
C9472 ¥657E (0)
定価: 本体657円(税別)
講談社

雑誌 60252-59
ISBN978-4-06-370083-1
C9472 ¥657E (0)
定価: 本体657円(税別)
講談社